

四国八十八ヶ所 遍路日記



## 弘法大師とオレ

---

プルルル・・・プルルル・・・プル

オレ：「はい、もしもし」

弘法大師：「ワシじゃ」

オレ：「誰じゃ!？」

弘法大師：「ワシじゃよ。こ・う・ぼ・う・だ・い・し」

オレ：「・・・」

弘法大師：「ほらほら、またの名を空海とも言う・・・」

オレ：「ああ、おだいっさん？」

弘法大師：「馴れ馴れしく言うな！」

オレ：「ああ、だいちゃん！おはよう！」

弘法大師：「慣れ慣れしいっつーの!・・・おはよう。」

オレ：「何!？朝はよーから。どしたん？」

弘法大師：「寝とったか？すまんすまん。」

オレ：「まあええわ。もう起きる時間や。ちょうどええわ。で、何？」

弘法大師：「いや、ほらもうすぐやるじゃろ？アレ！ムフツ」

オレ：「気持ち悪い・・・。おうやるけど。」

弘法大師：「で、だな、率直に聞く。なぜじゃ？」

オレ：「んー・・・。じゃあ聞く！だいちゃんはなぜ作ったんじゃ！アレ。」

弘法大師：「んー・・・。それはちょっと違うんじゃよ。」

オレ：「何が!？」

弘法大師：「ワシが作ったわけではないのじゃ。伊予の荏原郷の貪欲な長者の右衛門三郎が、自らの悪業を反省して、一目ワシに会って懺悔したい一心で四国を巡ったのが最初でな、あるいはワシの遺跡を遍歴した弟子の真済であるという説もあったりする。」

オレ：「何じゃ、そのどっかから調べてきたような説明は！」

弘法大師：「・・・・・・・・ま、まあ、とにかくワシが作ったわけじゃないのじゃ！んで、おまえさんはなぜ廻る？しかもチャリで。」

オレ：「んんん・・・難しいなー。教えられんなー。」

弘法大師：「教えられんか？」

オレ：「うん、ダメじゃ。」

弘法大師：「ゼツタイ？」

オレ：「うん、ダメ」

弘法大師：「おーちーえーてーよー！！」

オレ：「かわいく言ってもダメ！まあ一言で言えばタイミングがうまい具合に合ったっちゅうことかな。」

弘法大師：「うーん、深いなあー」

オレ：「どこがじゃ！」

弘法大師：「あそこを廻ろうっちゅうもんはだいたい2つに分かれてな、1つは身近な不幸の供養や懺悔の意味などの目的を持ったやつ。もう1つは“ふと”思い立ってやってみようかっちゅうやつ。おまえさんは後者じゃな。」

オレ：「まあ、そうやろな」

弘法大師：「でも、ふと思い立って廻るやつっちゅうのも、何かどこかで目的があるものじゃよ。言葉にできんだけで。」

オレ：「深いなあー」

弘法大師：「じゃろ？じゃろ？ワシって深いじゃろ？」

オレ：「まあそれも作戦なんやろ！“ワシは深いぜー深いぜー”言うてカリスマたらんとしとるだけじゃろ！」

弘法大師：「何じゃ！ケチつけるのか！？このワシに！」

オレ：「だってよー、おかしいやん。だいちゃん、あの88の寺、本当に自分で拓いたんか？」

弘法大師：「当たり前じゃ！ワシはな！大きな大きなそれは大きな溜め池も作ったし、綜芸種智院も作ったし、当時じゃあとても考えられんようなスピードで密教の奥義を受け継いだし、おまえさんも投花の話くらいしとるじゃろ！」

オレ：「知らん」

弘法大師：「まじっ！教えてやろうか？」

オレ：「いやべつにい・・・」

弘法大師：「実はな、こういう事があったんじゃ。唐への留学中に、密教の第一人者でワシの師匠の恵果阿闍梨から胎藏界、金剛界、伝法阿闍梨の灌頂を伝授されてな、灌頂のときには、曼陀羅の上に花を投げるのじゃ。それがじゃよ、ワシとしたことが二度も中央の大日如来の上に落ちたのじゃ。二度もじゃぞ！この意味がわかるかなー。とにかくすごいことなのじゃ。そしてこれはワシの遍照金剛という名の由来でもあるのじゃよ。」

オレ：「・・・」

弘法大師：「聞いとるかあ？おい！」

オレ：「うーん。寝とった。」

弘法大師：「・・・」

オレ：「でもよ、それを日本に伝えたのはだいちゃん自身やろ？」

弘法大師：「・・・ちゃんと聞いとるやないか。まあ、そうとも言えんが、だいたいはな。」

オレ：「じゃあダメじゃん。いくらでもウソつけるじゃん。」

弘法大師：「あほう。ワシがそんなウソつくかい！」

オレ：「まあええわい。それも作戦やろ。許してやろう。」

弘法大師：「違うっちゅうに！！」

オレ：「まあまあええわい。それよりかよ、だいちゃん、20代の頃に空白の期間があるよな？」

弘法大師：「ああ、大学中退してから遣唐使に行くまでの7年ほどのことじゃな。」

オレ：「そう。何しとったん？」

弘法大師：「教えられん！」

オレ：「やっぱりなあー」

弘法大師：「何がじゃ」

オレ：「オレ、あれも作戦やと思うんよねー。何か空白があると“一癖あるやつ”ってなるやん？みんなそこに奇妙な魅力を感じてしまうんよねー。オレは騙されんけど。」

弘法大師：「ワシはそんなケチなことはせんわい！！！」

オレ：「じゃあ、何しとったん？」

弘法大師：「教えられん！」

オレ：「ほーらね！特に大したこともしてなかったんやないの？でも、みんなが“山伏になって悟りをひらいた”とか“室戸岬で明星を見た”いろいろ言うもんやけん引っ込みつかんかったんやろ？そうやろ？」

弘法大師：「違うわい！もう怒った、だいちゃん怒った！もう知らん。おまえには同行二人しちやらん。」

オレ：「だいちゃん。それは大人げないでー。オレはなあ、基本的にはだいちゃんのこと尊敬しとるのよ。こんな言い方しても“我関せず”と言えるくらいの器やと思っとったんやけどなあ。失望したわ。」

弘法大師：「・・・ごめん。」

オレ：「まあええ、許しちゃろ。許しちゃろ。」

弘法大師：「ホント？」

オレ：「なーにが“ホント？”じゃ。シャキッとしてくれよ！」

弘法大師：「はい、はい、ちゃんと同行二人させていただきます。」

オレ：「頼むで！しっかり。」

弘法大師：「あっかん。そろそろ電話切るわ。携帯の通話料って高いからのう。」

オレ：「携帯かい！？」

弘法大師：「ふふふっ、i-mode！！」

オレ：「何するんじゃ！」

弘法大師：「だってよ、おまえさん、“いんたーねっと”っちゅうやつで日記書くんじゃろ？それ見てやろーと思ってな！」

オレ：「ああー。でも、i-modeで見れるかわからんよ。」

弘法大師：「えっ！？うっそーん！？」

オレ：「オレもまだよくわからんのやけど、たぶん大丈夫じゃない？でもだいたい、だいちゃん同行二人してくれるんやろ？だったらわざわざ見んでもわかるやんオレの行動。」

弘法大師：「まあそうやけど、ほら、世間はやれ“IT”だ“Eコマース”だでワシもしっかりついていかんとカリスマ性を保てんのじゃ。」

オレ：「もうええわ！」

弘法大師とオレ：「どうもありがとうございましたー！！」

## 初日

---

さむいぞ！！おらぁー！！

今、山口県は楠町の西在集会所というところ。なんとか九州脱出に成功した。

ここはただの田舎町の国道沿いの集会所。ちょっと休憩のつもりが、もう動けそうにないし、結構快適なのでここで寝ることにした。

今朝は、昨日2時すぎまで遊んでいて4時に寝たわりには早く起きた。やっぱり緊張しているのだろう。

8時から荷物のチェック、所持金かくし、それからめぼしい人々に“行ってきますメール”を出し、10時半出発。

・・・おっと、いかん。ちょっと寝てしまった。疲れておる。

そう。10時半に福岡をあとにする。めちゃめちゃいい天気でうれしい。出発日はこうでないと。「サイクル何とか」という、距離と速度を計るヤツは快調に時速22キロ付近をさしている。

地図は持たないけど、とにかくずっと3号線をいけばいいらしい。途中知合いのゲンジくんが白バイにつかまっているのを見かけつつ、香椎までは順調に。そこからどこで間違ったのか、気がつけば県道（国道？）495号線だかなんだかを走っていた。

道ゆくおっさんに

「3号線はどこですか？」

とたずねると

「あっち」

と、今来た道のはるか後方をさしていらっしゃる。

でも、方向的には北九州に向かっていることには間違いないと確信しているオレは、構わずこの道を行くことにした。いくらか時間はかかっても、今日の目標の本州入りをはたせればいい。

時速20k以上（実測値）という目安は何とかクリアしながら、ひたすらペダルをこぐ。古賀を過ぎた辺りで3号線の標識があったので、3号線に合流。流というところだ。そしてまた3号線をひたすらこぐ。

12時半。宗像で一服。ここまでのところで38キロ（実測値）。まあまあのペース。

ここからはアップダウンが続く。Mr.MAXが見えた。たぶん、昨日ケースケが言っていた「休憩したほうがいい場所」だろう。よくわかる。確かに休憩したい。ママチャリの限界だ。ジュース買って再びこぐ。

14時前、59キロ走ったところで北九州市に入った。正直に言うが、キツイ！岡垣町のアップダウンでかなりやられた。足がパンパン。自転車ではショートパンツだけど、夜寝る用にはチノパンを持って来た。ジーンズにしなくてよかった。ジーンズではもう足が入りそうにない。

北九州市に入ってもアップダウンは続く。

15時前。腹がへってきたので、ちょっと遅い昼めしを食べに、3号線沿いのリンガーハットでダブルちゃんぽんをかつ食らう。めしを食ったら足の調子も良くなった。体は正直だ。ここまでで73キロ。

標識を見ると、目標とすべき下関へは、あと30何キロとある。どう考えても大丈夫そうなので、もうのんびり行くことに決めた。

のんびりのんびり時速15kあたりで走る。そろそろ門司に着こうとしてきたところにカンタに電話。

「関門トンネルへは3号線ずっと行けばいいの？」

「いや、違いますよ。途中で道を外れないと行けません。」

やっぱりそうなのか。ちょうどその電話のあと、分岐点とおぼしき四つ角があった。聞いていてよかった。

トンネルへの入口（エレベーター）を探すのにちょっととまどいながら、何とか下関へ。ちょうど100キロ。17時すぎ。

目標は達成したので、今日はもうどうでもいいのだが、標識を見ると広島まで190何キロとある。明日は広島入りしたいのだが、さすがに実際100キロ走ったあとでは190キロの距離感に呆然とする。もう少し行けると小まで行っておこう。

この山口県というのは、この土地の人には悪いかもしれないが“いなか”だ。国道沿いに「いつのだ！」というようなディナーショーの告知がデカデカとあったり、牛糞の匂いがしたり、そんなことを感じながら、あたりなかつたりする歩道を走るのも旅の醍醐味である。

明日は広島入り（無理とは思いますが）を目指す。あと一眠りしたらさっそく出発する。とにかく早く四国入りをはたしたい。

今日は風呂に入れず汗臭い。

携帯が圏外なので送れない・・・

もう少し移動しよう。



## 2日目・・・雨

---

いや～ん。雨じゃん！

嫌だからあまり考えてなかったけど、やっぱり降るのね。天候は現実的だ。

昨日は日記を書いた後、結局宇部まで行った。真夜中の田舎道はトラックが怖い。外灯などない山道で、後ろからトラックに迫られると、体が硬くなる。でも、そうは言ってもらえないので「トラックは友達！」と思うことにした。そう思えば、ほら！ぶつかっても痛くない！！

3時くらいにつるや食堂というドライブインを見つけてそこのベンチで寝る。初日の走行距離は142キロ。

朝は寒くて6時に起きる。そのドライブインでちゃんぽん（うまい！）を食べて6時半ごろ出発。この時はまだ晴れていた。

ひたすら広島方向へ向かう。しかし、体が……。ひとこぎする毎に膝にムチを打つようだ。スピードも出ない。今日はムリせず、1時間毎に休憩を入れることにした。

それから1時間ほどで山口市内に入る。アラキが山口の彼女んちに来ているはずなので電話してみる。願わくば、朝飯にありつけないかと目論んだからだ（さっきも食べたけど……）。しかし、その彼女んちは「スズ」というところらしいが、その時オレがいたのが「鑄銭」だったかそのあたりで、遠いことを確認して電話を切った。ちょうどその頃、東京のハラから電話があり、激励の言葉などをもらう。ありがとう。

後は膝の痛みをこらえながら、ホントにただただ走るのみ。日焼けのバロメーターである腕時計とグラサンのあともバシッとついた。

山口南インターチェンジでさんざんまよって、8時半防府入り。さらに12時ごろ徳山入りしたところでマックでハンバーガーとチーズバーガーを2つずつ。いつものことだ。

15時前、玖河郡のところで、さっきからかーるく降っていた雨がもう放っておけない状態になってきたので、初のカッパを着用する。しかしカッパなど気休めにしかならない。シューズもショートパンツもベトベト。日焼けした肌にカッパのあのビニール感はなんとも言えない。結局シューズと靴下は脱いで裸足になった。裸足になったらなつたで交差点で足をついた時に踏んじゃった。う・ん・こ。雨のおかげで踏んだことを意識させないやわらかさ。一生忘れない。

雨はいっこうに止みそうもない。もう目標の広島入りはどうでもいい。安息の地を探す。

17時前、ちょっと早い岩国に到着したところで今日は終了させる。ホテルだホテル！2日目にしてもうホテルを使ってやる！今日はヤケだ。

というわけで、今、岩国駅近くのビジネスホテル。ふとんはいいねえー。部屋に入るなり軽く寝た。そして石焼きビビンバを食らう。

しかしやはり、よく食うわりには痩せてきた。日焼けのせいもあるけど。

今日の走行距離117キロ。トータル258キロ。  
明日は尾道入り。とまたムリな目標をたててみる。  
おやすみなさい。

### 3日目

---

昨日はホテルで寝た。今朝は6時に起きるはずが、寝坊して8時半起床。ふとんマジックだ。

足腰はやはり疲れている。そういえば昔、部活でバスケットをしていたころは毎日こうだった。わけもわからず走り続けて、疲れてドロンドロンになって帰ってきて、朝起きても太股あたりが重くて・・・。

久しぶりの感覚。

まあ、あの頃の方が回復は早かったけど。

昨日の雨がウソのように晴れ渡っている。身支度を整えて、ホテルの朝食を食べる。宿泊料に含まれているので、食べないと損だ。

9時半、岩国を出発。ひとまず目指すは広島市。

ホントに昨日の雨は何だったんだろう？今日は日差しが“でいりでいり”痛い。

広島市には、昼頃、あっけなく着く。なぜか“広島は晴れ”というイメージがあるんだけど、まさにそのとおりになった。

太田川を越えたあたりで、膝の痛みにはたえられず、薬局へ行く。こんなときは「バンテリン」だ！これは効く！！バスケットをやっていた時にはどれだけお世話になったかわからない。

たぶんその頃は、まだ発売されてなかったはずだけど、医者に処方された塗り薬が今思えば「バンテリン」と同じようなもので、バカみたいに効いていた。どうやら痛みをとるというよりは、硬くなった筋肉を柔らかくすることに非常にパワーを発揮するようだ。

薬局へ入って「バンテリンありますか？」と聞くとすぐに出してきてくれた。たぶん売れているのだろう。昔使っていたのがジェル（ゲル）状だったのでそれを頼んだ。薬局のおばちゃんはジェルはベチョベチョするからウォータータイプを愛用しているらしい。

そうは言われても、オレはジェル状だ。

そんなこんなで消費税分までもらった。1500円の消費税分だから、結構うれしい。ありがと。

広島市から東広島市への道のりはイヤらしかった。

“キツイ”ではなく“イヤらしい”。

ダラ～ダラ～と上り坂。「バンテリン」のおかげで足の痛みは癒えたけど、どうにも進まない。時速5～10kでダラ～ダラ～。結局、東広島市までおよそ30キロ強。4時間近くかかった。時速どおりっちゃあ時速どおりだけど。

でも、これだけ上れば、後は下るしかない！上りはママチャリ（とオレ）の限界を見てしまうが、下りはもう水を得た魚だ。あぶないとは思いながら車道をビシバシとばす。とばせるところでとばしておく！これはママチャリの鉄則であろう。歩道ではなく車道というのもポイントだ。歩道は小さな起伏が多くスピードが伸びないし、砂利が多くパンクの原因になる。そんなことを考えながら、ふと気づく。

1度2度はパンクもあるだろうと思い、替えのチューブとパンク修理セットは持って来ている。カンペキだ。しかし、何か足りない。そう、パンク修理には空気入れが必要なのだ。うっかりしていた。すぐにMr.MAXを見つけて、スプレー式の空気入れを買った。なんだかんだで金は飛ぶ。

17時すぎに三原に着く。東広島市から三原への道のり、何度もキンモクセイのにおいがした。もうそんな季節なのだ。キンモクセイは特別な香りがする。

目標の尾道へは20キロもない。海岸線をひたすらこぐ。日は暮れて寒い。尾道まであと10キロというところだろうか、遙か前方に点灯するしまなみ海道のあかりが見えた。この3日間とはかくこれを目指してきたのでメチャメチャ感動して泣きそうになった。うれしくてペダルをこぎまくる。  
19時ごろ尾道に無事着。

ちゅうわけで、目標達成！  
本日の走行距離131.1キロ。トータル391キロ。

ちなみにこの“走行距離”というのはサイクルメーターのシステム上“オレのチャリの前輪が回転したことにより進んだ距離”であり、道路標識に出ている距離とは違う。上り坂でくねくね走れば、それもきれいにカウントされる。街なかをウイリーで100メートル走ることがもしもあつたら、その100メートルはノーカウントである。だから、福岡から尾道まで、実際には391キロもないと思う。

カンタに「福岡から下関まで100キロもありませんよー」とメールで指摘されたので、メーターがおかしいのか？と思い、道路にある「車間距離確認」みたいなので、何度も真っ直ぐ走って確かめてみた。別におかしくない。

福岡～下関は途中道を間違った分と、本当は95キロのところをきりもいいしということで100キロと書いたこと（そういうこともある・・・）をあわせて、たぶんおかしくはないのだと思う。

あくまでも“オレのチャリの前輪が回転したことにより進んだ距離”であることをご理解いただきたい。

目安目安。

明日はしまなみ海道を渡って四国入り。3カ月前からの計画がやっと果たされる。

この日記もいよいよ精神世界に入る。

かもしれない。

経過をつらつら書くことにも飽きてきたのでそれもいいだろう。

今日は少しゆっくり過ごして明日を迎えたいのでファミレスを探したが、そんな気の効いたものはなく、仕方なくモスバーガーにいる。

ホントなら今日、ホテルに泊まるつもりだったのだけど、その権利は予期せず昨日使ってしまった・・・。

今から寝床を探す。

おやすみなさい。

## 4日目 四国入り

---

今日も快晴。

昨日はその後、地図を買いに本屋に行った。中四国の。

地図なんかいらん！と思っていたけど、自分の通った道をチェックしておきたいと考えた。次のためにも（あるのか？）。

その本屋でふと気になった本があった。秋元康のやつ。タイトルは「人生にはやりたいことをする時間しかない」だ。あんな風貌なのでうさんくさいんだけど、たまにおもしろいことを言う。

それはそうと、ここまでのところで400キロ近く走っていることはわかっている。しかし、実感としてはわかりにくい。改めて地図を見てビックリした。結構な距離を走っている。3週間後これをまた引き返すのかと思うと、ちとつらい。

今朝は、尾道駅の交番の近くで寒くて目が覚める。

6時。

交番近くは比較的安全だ。おそわれることもないだろうし、万が一殺されるようなことがあっても、警察がすぐに捕まえてくれるだろう。

尾道駅に入ってちょっとくつろいで出発。今日はいよいよ、しまなみ海道を渡って四国入り。しまなみ海道をご存知の通り、広島尾道から瀬戸内海の島々を渡り、愛媛の今治を結んでいる。この橋の画期的なところは“自転車も歩行者も利用できる”ところだ。もしそうでなければこの旅を実行してなかっただろう。オレが2番目に楽しみにしていたことだ（1番目はまだ内緒）。この橋は“橋”とは言っても、自転車で渡る場合は橋ひとつ渡っては島の道を走り、また次の橋を渡って島の道を走り・・・の繰返しである。そして“橋”の部分なんてほんのわずかで、ほとんどが島の道である。今日なんかは天気も良くて、それもまたいいのだが、雨の日などは面倒でしかたないだろう。



しまなみ海道（島部）とサダコ（ママチャリ）

今日は天気がいいので、気分良くウォークマンを聴きながら行くことにした。

“絶景のパノラマ”という言葉があるが、この島々は本当に視界の隅々まできれいだ。



ザ・しまなみ海道

そして、どんな音楽もよく似合う。洋楽でも、JANETもJOEもSisqoもBrianMcknightもToniBraxtonも全て受け入れてくれる、懐が深い。時間の流れも違う。先を急ぐことがバカバカしく思えてくる。



じいちゃんとのどかな風景

と、のんきなことを言われてられるのも最初のうちだけで、途中から音楽なんか聴いていられなくなった。やっぱり。

細かいことは省く。とにかくきつかった。野良犬が異常に多かった。  
75. 7キロ、約7時間かかってようやく今治へ。



しまなみ海道を渡り終えて、四国に上陸するための自転車道。

ぐる〜っと1周しているのがそれ。爽快。

．．．．．

---

さっそく五十四番札所延命寺を目指す。本来なら1番札所から始めたいところだが、そんなことを言っているのはいつ終わるかわからない。

五十四番から五十九番はこの今治にわりと固まってある。今日中に行けそうだ。

五十四番延命寺につくとまず、遍路用具を整える。と言っても、納経（のうきょう - 寺ごとにハンコとサインをいただく。スタンプラリーのはしり）は300円（つまり300円×88＝26400円）もするのでしないつもりだから、納経帳は要らない。白装束は着ない。なので、納め札と経本だけ買った。それでも寺の人は納経は必要！必要！と言う。「いや、いらぬ。金がかかる」と言っても、「廻った証がないじゃない」と言う。どうしても買わせたいらしいが「証はいらぬ」と言ったら諦めてくれた。変わりにはというか気になっていたのも、お守りとして虎眼石の腕輪を買った。2000円を1800円にしてもらった。



54番延命寺とサダゴ（ママチャリ）。

首を3度ほど左に傾けてご覧ください。

延命寺を出たところで、左足が動かなくなってきた。膝から下が“ぶらーんぶらーん”する。納経しなかったから？いやそんなはずはない。四国に入って安心して気が緩んだのだろう。今まで気力でもっていたのが、ついに疲労に負けてしまった。バンテリンも効かない。

左足はただペダルの上に乗せただけの状態でもりあえず次へ向かう。

五十五番札所南光坊。八十八ヶ所の中でも、最後に“寺”がつかないのはここだけ。今治駅のすぐ近くの街なかにある。正直言って、寺としてはおもしろくもなんともない。でも八十八ヶ所のひとつだから行かないわけに行かない。何か違うよなー。

次に向かう。

五十六番札所秦山寺。

場所としては寺っぽいところにあるのだけど、どうってことはない寺。おまけに納経所で小坊主さんが“ぐてっ”としていて、オレが近付くと“シャキッ”となった。なんか違う。

五十七番札所永福寺に向かうころには、小学生の集団にひょいひょい抜かれて行かれるほど情け

ないスピードになってきた。時刻も5時を過ぎる。寺の夜は早いのだ。永福寺には行ったものの本堂も大師堂も扉は閉まっている。お参りだけなのでそれでも別に構わないのだけど、お大師さんに失礼なので今日はここでやめることにする。気分も乗らないし。

トボトボと晩飯と寝床を探しに今治駅方面に帰っていると、ケースケからメールがあった。彼はここ今治の出身である。たっぷり食わせてくれる中華料理屋が五十五番南光坊の近くにあるらしい。さすがケースケ！食うことだけはしっかりしている。それなら駅にも近いし好都合。教えられた店を探す。

「重松飯店」

おもいきり日本名だ！ヘタに“～楼”とか中国っぽくしてないところがいいではないか。中に入る。値段もそこそこ安い。「チャーハン大盛り」と頼んだのに、おもいきり「やきめし大盛り～！」と厨房に叫んでいる（愛媛では“おらぶ”）。“焼飯”と書いて“やきめし”と読む！良いではないかー。しかも大盛りがハンパじゃない。こいつらの大盛りは本気だ！200円も追加させられる。でも“大盛り”とはそもそもそういうもんだろう。調子に乗っておでんのあつあげを頼む。これがもうま～ず～い～！！“中華料理屋さんのまずいおでん”。良いではないかー。ポリシーだ。

ああ、いい気分。

いい気分で寝床を探す。駅まで自転車を押して歩く。やはり左足が変。歩いていて左足を踏み出すと“外股になって内股”になって、真っ直ぐに踏み出せない。

わかるだろうか？“外股になって内股”“外股になって内股”。

明日は、五十八番五十九番はいいとして、2日目にしていきなり難所六十番横峰寺へ向かう。五十九番からこの六十番横峰寺まで、歩いて8時間。石槌山の中腹にあるから自転車は意味がない。ほとんど押して歩くことになるだろう。

この足で大丈夫だろうか？

実は以前にこの四国八十八ヶ所を廻ったことがある。\*1

その時にはこの横峰寺へオレは行ってない。部活か何かでついていけなかったのだったと思う。

今、手元にある八十八ヶ所ガイドブックを見ていたら、“横峰寺は悪心を持った人はここから先に進めないと言われている”とある。だから、以前は行けなかったのかもしれない。

明日は大丈夫だろうか？この足の具合でいけないようなことにならないか心配。ちょっと弱気にもなる。

\*1.中学の頃、父親が厄払いということで車で一年ほどかけてちょこちょここと廻って、おれはそのいくつかをついてまわった。

本日の走行距離105.3キロ

トータル496キロ



## 5日目 四国2日目

---

今治駅→58仙遊寺→59国分寺→60横峰寺→61香園寺→62宝寿寺→西条駅

↑こういうふうを書くことにした。

どうやらこの先1週間、雨は降りそうもない。やったね。

昨日は今治駅近くのトヨタレンタリースのドアの前で寝た。なぜなら、その自販機用の電源が一口空いていたから。そう、これを書いてホームページにするには、Palmと携帯を充電しないとイケない。こういう時のために電源タップはちゃんと用意してある。ちと寒いがそこはガマンして寝た。

起きたら3時過ぎ。2時間ちょっとしか寝てない。でも、もう寒くて寝られる気がないので、起きていることにした。

ちょうど寝ている間に、この日記を見てくれた人のメールが2通ほど来ていたので返事を出したり、今日廻るところの確認をして6時に出発。五十八番札所仙遊寺、五十九番札所国分寺をひとまずイッキに廻ることにする。

仙遊寺までは10キロ弱。山を登らないとイケないが、もう大した距離じゃない。

まだ薄暗い道を走っていて、ふとカーブミラーで自分の姿を見た。

「オレじゃない！」

自転車を止め、持って来ていた手鏡でよく見てみる。ほおはポックリへこんでいて、顔は真っ黒。色が黒くなければ、ただの病人みたいだ。

「やっぱりオレじゃない・・・」

こころとは裏腹に、体はすっかり遍路姿になっている。



出発前、家の前で。余裕。



2日目、山口市内。まだ余裕。



5日目。横峰寺。

明らかに表情が変わっている。

自分で言うのも何だが、ここまで体はよくがんばってくれた。

ジッと手鏡を睨みながら、オレの中を何かが走った。

ようやくこころが体に追いつき始める。

途中、犬塚池を通る。この犬塚池には犬にまつわる悲しい逸話がある。詳しくは書かないが、やっぱり犬ってバカでかわいい。

五十八番札所仙遊寺。

今治や瀬戸内海を一望できる。

門をくぐるとさらに上へと山道が続く。

その脇に小学生が願い事や将来の夢を書いた短冊状の木板がいっぱいささっている。

学年と名前だけのものから“サッカー選手”や“ペット屋さん”ペットの横にちいさく“芸能人”と書いてあるところがかawaii。ほんわかとした気持ちになる。

しかし、ふと足を止めた。いや止められた。

“ツルの一声”

「んっ??？」

もう一度見る。

“ツルの一声”

「えっ??？」

“ツルの一声”

“ツルの一声”

“ツルの一声”

うーん・・・。

意味がなあ〜い。

夢になってなあ〜い。

あなたちょっと最高です！！

“ツルの一声”

しかし、前方を見てまたくらった！

“建設”

だから建設の何なのだ！

「あれっ??？」

もしかして、“ツルの一声”と“建設”で1ペア！？

偶然？

ふたりとも将来大物になれるよ！

仙遊寺から国分寺へ。

国分寺の売店でアイスクリームの接待を受ける。ごちそうさま。



国分寺。

おばさんに写真を撮って欲しいと頼まれた  
ので、じゃあ僕のも、と撮ってもらった。

全身が写った唯一の写真。貴重。

.....

国分寺からいよいよ横峰寺へ。

ほぼ平地を20キロ弱。どこからというわけでもなくずーっとキンモクセイの香りがする。

こうやってひたすら走っていると、6日前までの福岡の生活が遠い昔のこのように思えて、もう何年もこうやって自転車をこいでいるような錯覚に陥る。

足も調子よく、これなら横峰を越えるのは難しくなさそうだ。

石槌山のふもとに着くと10キロほど自転車で登って登山口に。そこからは自転車では通れない。はじめて自転車を置いて歩きに。川の水で膝を冷やし、念入りにバンテリンを塗り、十分に休憩をとる。約2.2キロ。坂道の2.2キロはいまいちイメージがわからない。

杉林の中を進んで行く。ひんやりとした空気が気持ちいい。他には誰もいない。蜘蛛の巣に絡まれながら進む。絡まれながら進む。絡まれながら進む.....

「あーもう、うっかしい」

ちょっと蜘蛛の巣の量がハンパじゃなくなってきた。

「ん？おかしいぞ.....!？」

たしか、オレが休憩している間に一人お遍路さんが先に行った。

その差10分。

この蜘蛛の巣はそのお遍路さんが通った後にできたのだろうか？蜘蛛は10分そこらでこんなに巣を張れるものなのか？

もう歩いて1時間以上になる。下にあった案内には徒歩で約1時間10分とあった。いくら足を痛めているとは言え、オレは“若者”である。1時間10分と書かれてあれば50分もあれば目的地に着いてもいいはずではないか!？

「マズイ.....」

イヤな汗が出る。

そういえば“遍路道”と書かれた立て札をもうしばらく見ていない。

“横峰寺は悪心を持った人はここから先に進めないとされている”

いかん！油断していた。

今来た道を引き返す。苦労して登った道を、もしかしたらあっているかもしれない可能性を残したまま引き返すのはとてもつらい。

4、50分下ってようやく“遍路道”の看板を見つける。横峰まで1.7キロとある。右手を見るともうひとつの道が.....

「ここだ」

こんな道があっただろうか？気づかなかった。

もう足は疲れと焦りでガタガタ震えている。

気を取り直すような余裕もないまま、本来の道をまた登る。

「悪心があったのかな.....」

こんどは立て看板に注意しながら進む。左足は曲らなくなっている。

遠い。

気が付けばもう14時近くになっている。歩き始めて3時間。

結局14時半に横峰寺に到着。

ここで初めてお経を唱える。実はこれまでお経を唱えることをしていなかったのだ。やっぱりしないとダメだ、と叱られたのだと思う。

ふたたび下る頃には日は沈みはじめていた。そういえばどこかで

“横峰へは午後から目指してはいけない”

と聞いたことがある。

確かに。山の日暮れは早い。もう少し遅く出ていたら、日没を迎えていたかもしれない。

何とか横峰を下山。時刻はもう16時。



さんざんさまよった横峰寺への道。

香園寺を目指す。そんなに遠くはない。

香園寺と宝寿寺を廻ったところで、17時になる。今日はここまでだ。

疲れた。

温泉にでも入りたい。もう3日間も風呂にはいってない。

少し遠いが次に向かうべき吉祥寺と前神寺を越えて湯ノ谷温泉に行く。温泉というよりは銭湯に近い。値段も300円と手ごろだ。

温泉から上がると寝床を探しに西条市街へ行く。

コンビニで弁当を買い、駅で食べる。

.....

弁当を食べ終り、この日記を書いていると、中年の物腰のやわらかな男性に声をかけられる。

「すみません。キリスト教のご紹介をさせてもらえませんか？」

うわっ来た！しかしタイミングが悪いよ、と思いながらも「どうぞ」と横に座ってもらう。パンフレットをもらい、ひと通り説明を受ける。要はオレに洗礼を受けさせたいらしい。しかも明日！

キリスト教をあまり知らないし興味深いので、もう少し説明をしてもらう。

全ての物事は、神の導きによるものであって、そのためには洗礼（彼は“水と霊”とよんでいた）を受けないことにはお話にならないらしい。しかも、その洗礼の方法もカトリックやプロテスタントなどいろいろあるけど、聖書に則った正しい方法でやるのは彼のところ（イエス之御霊教会とか第一教会とか言っていた）だけなので、ぜひとも間違った洗礼を受けてほしくない、ということだ。

別にお四国参りしているからと言って真言密教徒ではないし、オレが納得出来るならクリスチャンも一向に構わない。

少し意地悪な質問を試してみた。

「なぜカトリックやプロテスタントなどに分かれてしまったんですか？もとは同じなのに。おかしくないですか？」

『それは分かれるもの、と神がお決めになったのです。』

「.....」

「僕は自分で信じるものを見つけようとしています。それじゃダメですか？」

『神は洗礼を受けた人間に自由を与えます。あなたがどうしようと、それは神が許します。ただそれは洗礼を受けることが前提です。』

「.....」

「仏教は大きくくくれば“存在と時間”の哲学だと思っています。そのあたり、キリスト教ではどう定義されているのですか？」

『時間は神が支配しています。』

「.....」

延々3時間。

面白いのもっともっと書きたいのだけど、やめておく。結局のところ『神のお導き.....』であり『運命は決っていて.....』に行き着く。

それらを否定するつもりはさらさらないが、オレはプラグマティストなので、自分の経験、体験や、より実践的なものしか信じない。『神ありき』のような絶対的なものは残念ながら信じられない。ただただ彼との温度差は広がる一方だ。彼はややいらつくオレに対しても情熱的に語ってくれるので、それは素直にありがたく受け入れる。でもオレはもっと、聖書の言葉を引用する

のではなく、彼自身の言葉を聞きたかった。

そして彼は交渉ベタだ。

オレが今お四国参りをしていることを告げると、明からさまに“おろかなことを・・・”と言わんばかりに天を仰ぎ見る。他人に何かを受け入れさせなかったら、まずはその相手を受け入れることから始めるべきだろうに。

なにより決定的なのは、オレは今、この事を成すことに情熱を傾けている。彼も情熱的に語ってはくれるけど、それはオレの情熱を全然上回ってはいない。だからオレは彼に何の魅力も感じない。

『仏教と言え、あの赤い鳥居、実は血の意味があるらしいね』  
と言われた時はコケた。勝手に神仏習合すなー！

でも彼は彼で信じるものがあるんだからそれで良い。

もう12時近い。早く更新しないと、横峰寺で放浪しとると思われてしまう。

場所を移してまた書き始めると、今度は飲み帰りのおっさんにつかまる。事情を話すと

『ほならコーヒーでも』

と缶コーヒーをごちそうになる。そしてその後からやって来た女性が持って来た仕出し料理を

『おいっお接待や。わしらの煩惱を全部持って行ってくれるでー』

とお裾分けしてもらう。煩惱はどうか知らんがサザエやらから揚げやらいっぱいいただく。

最後におっさんは

『テレビ局やらに知合いが結構おるけん。なんかおるでーゆーとくわ。』

と車で帰って行った。頼むけんやめてくれ・・・。おっさん。

やっと書けるかと思うと今度は18くらいのおんちゃんが

『あの～ここなんていう地区ですかねー』

知るかい！と思いつつ

「旅のものなんでねー、ちょっとー」

といちおう地図で調べるふりをする。

『友達と待ち合わせたいんですけど、隣町から来たもんで・・・』

「へー、どこ？」

などと会話して

「あそこが西条駅やからあそこで待ち合わせたらどーです？」

とわかる。

いつになったら寝れるんやろ？

男と女はけんかしはじめるし・・・もう～そんなに絶叫するなよ～。

これも試練なのか！？



## 6日目 四国3日目

---

西条駅→63吉祥寺→64前神寺→65三角寺→観音寺駅

昨日はなんとか寝られた。

7時前に起床。

昨日の日記を途中でやめて寝ていたので、それを書き上げ、ホームページにアップして西条駅を出発。

昨日、温泉に入りたいがためにムダに（温泉に入れたからムダでもないんだけど）ここまで来てしまっていたので、少し今治側に引き返して、六十三番札所吉祥寺、六十四番札所前神寺を廻る。吉祥寺は国道11号線沿いに、前神寺も11号線から遠くない場所にあり、前神寺で昨晚いただいた仕出し料理をいただく。アユまで入っている。

昨日横峰寺へ向かうとき、そばを流れる川でアユを見つけた。流れに流されないようがんばるアユを見ながら“かわいい！”と微笑んでいたのを、今日は食べている。

次の六十五番札所三角寺へは45キロほどある。急ぐでもなく11号線を東へ進む。

途中立ち寄ったコンビニで臓器移植提供意志表示カードを見つける。

少し前のことだが、そのときハマってたエッセイストがおもしろいことを書いていた。くわしくは覚えてないので、それをきっかけにオレが考えた言葉で置き換える。

小さい頃、母親が台所で魚をさばくのを見ながら、誰でも言った経験があるだろう。

「おさかなさんがかわいそう」

と。そして母親は

「このおさかなさんはね、おさむに食べられて、おさむの血や骨になれて喜んでよ。」

と答える。オレはその言葉に違和感を持っていた。

“うそだ。おさかなさんは絶対イヤがっているはずだ！”

誰だって魚だって牛だって殺されて食べられるのはいやだろう。それは釣りなんかの経験があればわかりやすい。釣り上げた魚は悲しいほど目がく。決して“やったね！食べてもらえる。わーい！！”と喜んでいるわけではないだろう。そういうのを生きるために食べ、そして生きている。だから、オレも死ぬときは（イヤだけど）何かに食べられてその血や骨になるべきなのだろう。

しかし実際のところ、それは難しい。大昔ならともかく、今の時代で動物に食べられて死ぬ確率はゼロに近い。ましてや人間に食べられる確率はゼロだ。

そこで、形は変わるが臓器提供である。これには賛否あるしそれはよくわかる。ただ、賛成意見の“どうせ灰になる体。最後まで人様の役に立ちたい。”という考え方はすばらしいことだけど好きじゃない。生きているうちに役に立つことができるようにがんばれよ！と思う。

オレははっきり言って“なんでお前はオレの体使って生きとるんじゃ”という思いは拭えないだろう。でも、たくさんの生き物の犠牲の上に生きていながら、それを言うのは人間の傲慢だろう。役に立つ云々の前にそういう考えで臓器移植に賛成するようになった。

しかしそう思いながらも臓器提供カードとうまく出会わない。やはりオレの傲慢な部分が多い

求めていなかったのかもしれない。

昨日のアユと今日のアユ。そしてこのカード。これも何かの“ご縁”というやつだろう。カードの全ての項目にチェックを入れ、目的地に向かう。

．．．．．

---

昨日書くのを忘れていたが、昨日までの時点で走行距離は553キロになっている。5日間で553キロだから1日あたり100キロ強。それだけ走れば無理もないことかもしれない。出発前に修理しておいた後輪が、まだ曲がり始めた。状態としては、後輪の軸がずれて進行方向に対してまっすぐに回転していない。そして自転車の車体に当たり、ロスが激しい。

実は一昨日も同じ状況になり、なけなしの500円で修理をしたばかりなのだが、もうダメになってしまった。すでに神技の域に達しそうなオレの応急処置（めいっぱい蹴る！）も効かない。“職人さん”がいそうな自転車屋を探す。多少値が張っても良い。もう完ぺきに治してほしいのだ。求めればあるもので、まもなく11号線沿いに良さげな自転車屋を見つける。かれこれ半年は1台の自転車も売れてなさそうなたたずまいだ。そこにベテラン風のおじさん（おじいさん？）が座っている。ここに賭けてみることにする。

状況を話すと

「チェーン引きが片方なかったら、そりゃ曲るわい！」  
と言う。一昨日の自転車屋ではそんなことは言われなかった。期待出来そうなのでこの職人に全権を委ねることにする。

自転車をひっくり返し、その“チェーン引き”というものを取り付けた。

「あんた長距離？ならもうあんまりもたんで・・・」

後輪のタイヤをさすりながら職人は言う。

確かに。溝など跡形もない。タイヤがすり減るところまですり減って皮一枚の状態である。500キロ走ると、こうもなるのだろう。

もうどうにでもしてくれ。おまかせする。

タイヤも取り換えてもらうことにする。

ひとつだけ心配なのは、前述のようなたたずまいの自転車屋である。いつの時代のタイヤが用意されるかわからない。しかもオレはこの職人に全権を与えたことにしてしまっている。信じて待つしかない。

ふと、この様子を写真に収めようと思い、職人に尋ねる。

「写真とらせてもろてええですか？」

職人は何とも言えない照れた様子で

「へへっ・・・。」

とだけ言う。いいとも悪いとも言わない。

オレのこの職人への信頼度は、もう、はちきれんばかりの100%である。

なんせ暗い店内。職人の目を奪わないことを願いながら、フラッシュとともにシャッターを切る。



職人とバラバラサダコ。

あとはそのままじっと待つ。

タイヤが新しくなる。

値段はちと高かった。しかし、金がないとはいえ、いい仕事にはそれ相応の感謝と対価を支払う。それがポリシー。曲げるわけにはいかない。

自転車屋をあとにする。

すごくいい!“自転車ってこれよねー”とか思いながら、こいつに名前を付けてやることにする。

『3代目サダコ』

もうこれしかない。ちなみに1代目サダコはオレのアソコである。2代目サダコはこれを書いているPalmVx。どれも今のオレにはなくてはならないものだ。

気分も良く三角寺を目指す。ひたすら上り。

3時前ようやく到着。お四国にはよくあることだが、いくら苦勞してたどり着いても、そこにはあっけないほど普通のお寺が待っているだけである。

本堂で手を合わせ、大師堂で般若心経を唱える。横峰寺から始めた般若心経はまだうまく唱えることができない。まだまだ先は長いのでそれは焦らないことにする。

次に行くべきは六十六番札所雲辺寺。“雲の辺りの寺”。そう高いのだ。八十八ヶ所の中でも一番高い。17時（お寺のタイムリミット）まで2時間弱。ちょっときびしいかも。それに、ここから香川県になる。来ました！さ・ぬ・き★

かなり早い時間だが、今日はやめにしてうどんを食べようということにした。昨日に引き続きちょっとムダだが、雲辺寺の麓の町を越えて観音寺市へ向かう。うまいさぬきうどんというのは実はこの辺にはない（といってもうまいんだけど）。いわゆる安くてうまいぶっかけうどんを食べたかったら、高松あたりまで行かないといけない。だから別に観音寺市に行ったところでそれほどメリットもないんだけど、寝床を探すにはそれなりに大きな街の方がいいのだ。

観音寺駅内にあるうどんやに入る。

入った瞬間“失敗だ！”とを感じる。何となく。

でもそこは本場。うまくないとは言っても、決してまずくはないので、まあいいだろう。

えび天うどんを頼む。やはりうまくはないがまずくはなかった。本場の底力的味（よくわからん？）。

近くの商店街でベンチも電源もある、最高の野宿スポットを見つけ居座っている。

明日は雲辺寺から行けるとこまで行く！うどんは食えるだけ食う！でがんばろう。

最後に

みなさんたくさんのメールありがとうございます。なかには久しく連絡の途絶えていた人や“えっ！？”と思うような人も見ていただいているようでうれしいです。

来たメールには全て返事を出すつもりでした。昨日までは……。一昨日までにいただいた分は手違いがないかぎり何とか返事を出していましたが、昨日からちょっと対応しきれなくなってきました。ごめんなさい。勘弁してください。

もちろん読んではいますので……。

## 7日目 四国4日目

---

観音寺駅付近→66雲辺寺→67大興寺→68神恵院→69観音寺→70本山寺→71弥谷寺→72曼荼羅寺→73出釈迦寺→74甲山寺→75善通寺

5時半起床。それにしても朝は寒い。

野宿に目覚し時計はいらぬ。望む望まざるにかかわらず、冷たい空気が目を覚まさせる。

トイレに行きたくなったので観音寺駅に寄って6時頃出発。

雲辺寺（うんぺんじ）まで、上りはあるもののほぼ一本道。久しぶりにウォークマンを聴きながら、快調にとぼす。上り坂はきついがさすがに慣れてきた。あまりにきびしい坂は自転車を押して歩けばいい。ヘタにムリしてペダルをこぐより、その方が速いことのほうが多い。この一週間で覚えたコツ。

雲辺寺は四国八十八ヶ所霊場の中で一番高いところにある。徒歩でも登ることはできるがここには山の中腹あたりからロープウェイが出ている。往復2000円。

これは悩みどころだ。オレはこの旅の一日の予算を2000円で考えている。それがイッキに飛ぶのだ。しかもこれまでのところすでに予算オーバーのペース。

もちろん2000円をケチる方向で考えていた。

しかしそれにも問題があって、横峰寺でさまよったツケが着実に出て来てしまっていて、日程的に苦しいのだ。

2000円をケチれば日程が苦しい。2000円出せば、今日はかなり先まで進めることができる計算なので、遅れを取り戻せるどころか余裕が出るかもしれない。

2000円はケチりたい。でもなあーそれじゃあヘタすれば今日は雲辺寺だけで終わってしまいかねない。と言え、上の道程からオレの出した結論は明らか。

不慮の事故はいつ起きるか分からない。ジャンジャン先に進もう。

雲辺寺ロープウェイのりばに着く。まだこの時間、客は少ない。もう少し遅ければ土曜だし団体遍路であふれてくるだろう。滑り出しはいい感じだ。漱石二人に別れを告げ、ロープウェイに乗り込む。自転車以外の乗り物に乗るのは久しぶりだ。

日本で一番速いらしいこのロープウェイはわずか7分で山頂に到着。あっけない。

この雲辺寺はお大師さん（念のために言っておくと弘法大師、空海）が16歳の時修行した場所だと言われている。それはいわゆる“伝説”的な臭いもするし、真偽はわからないが、お大師さんのスケールの大きさを物語るには絶好のスポットだろう。

頂上のロープウェイ待合所でお茶のお接待を受ける。

来た時と同じように、7分で下山。合計で14分で2000円・・・イヤもう言うまい・・・。

下山するとロープウェイ乗り場のうどん屋が開店していたので朝飯を食べる。さすが本場さぬきなだけあって、こういう所ありがちな適当さはない。

かけうどん大盛りで420円。この辺りのかけうどんにしては高いかもしれないが、それでも安いもんだ。

それから、六十七番札所大興寺（だいこうじ）、六十八番札所神恵院（じんねいん）、六十九番札所観音寺（かんおんじ）はある程度イッキにまわれる。とくに観音寺と神恵院は同じ敷地に

ある。どういうことかという、"寺"としては観音寺なのだ。神恵院も。観音寺の中に神恵院があって、観音寺、神恵院それぞれ霊場として認められている。1寺2霊場なのである。そうなったいきさつは、オレはガイドさんじゃないので書かない。いや、めんどくさいと正直に言うておく。

ともかく、こんなのアリか？とも思うけど、遍路としては便利と言えば便利。つまらないといえどつまらない。たまにはこんなのもいいかな、くらいのものだ。

次は本山寺（もとやまじ）。これも目と鼻の先にある。と言っても5キロの距離はあるが、平地でもあり、もうなんのことはない。

本山寺から弥谷寺（いやだにじ）は13キロの道のり。お昼どきにでもあるので"とりあえず"うどん屋を探す。

国道11号線沿いに"渡辺（だったと思う・・・）"といううどん屋を見つける。"国道沿いの食べ物屋はまずい"の法則から言えば避けたかったのだけど腹の虫に負けた。

中に入ると結構賑わっている。値段も安い。釜あげうどん大盛り（400円！）を注文する。

出て来たうどんは、となりのおっさんが「うわっ」とのけぞるほどのマジな大盛り。これがうまい！ホントにうまい！とても国道沿いの味ではない。それにこの値段である。いいぞ！さぬき！！

腹いっぱいになってお勘定を払おうとすると

「いいよ、いいよ。」

とおばちゃんと言う。はて？と思っていると

「お四国さんやろ？お接待させてください。」

ええ～っ、マジっ！！

肉うどんにすれば良かった・・・。

いやいやそんな問題ではなくて・・・。

ホントに？0円？このまま帰っていいわけ？

向うの方で大将が首を振っている。

何たること！お遍路さんってそんなに特別な存在なんだ！ここでは。

なんか申し訳ない・・・。こんな、特に何の願も掛けてないようなお遍路のために・・・。

んぼーっとしながら店をあとにする。

.....

んぼ——と自転車をこぐ。立ち止まり、んぼ——と地図を見る。

「どこまで行くん？」

声を掛けられる。

「あっ、えっ、“ヤヨイジ”です。」

「へっ？・・・“イヤダニジ”じゃないの？」

いきなり間違った！次は確かに“弥谷寺（いやだにじ）”だ。オレの認識なんてこんなものである。

「弥谷寺やったら・・・・・・・・」

めっちゃめっちゃ丁寧に教えていただく。

このアドバイスがなかったらおそらく間違ってしまったに違いないような場所にそれはあった。

弥谷寺に近付いた時、“歩き遍路”を見かける。

「ごくろうさまです。」

声を掛け顔を覗くと、若い！たぶんオレより若いだろう。弥谷寺は七十一番札所だから、普通に一番からはじめている人ならもう終盤である。いい顔をしている。

到着して自転車から降りると、イヤな痛みが左足の膝に広がる。

ああー、まただ。

これまでごまかしごまかしやってきた足が悲鳴をあげる。ヒ——っ。

よりによって・・・この寺は500段以上にもなる石段で知られている。左足では踏ん張れない。右足だけを使って登っていると売店のおじさんが

「おーい、荷物置いて行かんか～。そんな足じゃあ上までもたんやろ～。」

と気遣ってくださる。

お言葉に甘えてそうすることにして身軽になる。

しかし、それでも痛みはとれない。石段のちょうど半分くらいのところに蛇口があったので足を冷やす。

参拝を終えてさっきの売店によると

「これ貼っとく？あんた痛くなったら冷やすことしか考えてないやろー。それ炎症おこしとるんやけんなあ、温めることも考えんと。」

と温シップをいただく。そうか、それは考えてなかった。

他にもあんこもちや、お茶、タオルをいただく。

接待漬けの一日だ。

次の七十二番札所曼荼羅寺（まんだらじ）と七十三番札所出釈迦寺（しゅっしゃかじ）も歩いて



5分くらいの位置関係だ。そして、七十四番札所甲山寺（こうやまじ）も自転車で10分前後だった。

時刻は17時に近づく。

「あとひとつだな」

七十五番札所善通寺（ぜんつうじ）へと急ぐ。

善通寺はとにかくデカイ！もしも雲辺寺がこれほどの規模だったら問答無用で圧倒されていたに違いない。しかし残念ながら（？）善通寺は割と市街地に近いところにあった。

本堂と大師堂のお参りを済ませて地図を見る。今日の晩飯はもう決っている。

「またかよ」と言われそうだが、うどんだ。

しかも、うまい！と評判のところで、この旅に出る前から下調べをして、楽しみにしていた。

ひとまず善通寺駅を目指す。そこからなら地図がなくても行けそう。

善通寺を出て、何々接骨院の前でその看護婦さんと思われる人に道を尋ねる

「善通寺駅はどう行ったらいいですか？」

「お四国さんまわっとるの？」

「はい」

「じゃあちょっと待って」

と言って、接骨院から栄養ドリンクをとってくる。

「これ飲んでがんばりなさい。」

またお接待だ。今日はツイているのかどうかわからないが、本当に“お接待を受ける日”だ。お四国は毎日毎日何かテーマを与えてくれる。

ともかく、目当てのうどん屋が見つかり、生まれて初めて“ぶっかけうどん”を食べる。うまい！この麺はここまでやるか！っていうくらいコシがあってオレ好みだった。

今日で出発から丸1週間。

まだ1週間かあ〜。密度が濃くてそんな実感が全然ないが、先は長い。願わくば、暖冬であって欲しいが……。それはなさそう。

昨日も書き忘れていたが、昨日の走行距離は79.2キロ。そして今日の走行距離は66.8キロ。総走行距離は699キロ。

ちなみに、お四国の総距離は1500キロくらい。

これまでの699キロのうち、福岡～しまなみ海道間の分を差し引くと233キロ。

あと1267キロ……。

ああ〜計算するんじゃなかった、と後悔する。

ホームページの更新時間がまちまちになっております。

今午前5時半。

一度寝てから書いています。

はじめは、21時くらいに更新する、と言っていましたが、これくらいのペース（一度寝てから朝更新）がちょうどよさそうなので、そういうことにさせていただきます。

## 8日目 四国5日目

---

善通寺駅→76金倉寺→77道隆寺→78郷照寺→79天皇寺→80国分寺→81白峯寺→82根香寺→83一宮寺→高松市街

善通寺駅の待合室で目覚める。

雲行きがあやしい。

駅では終電後絞め出されるのが普通なのだが、ここは電気も付けっぱなしで自由に出入りできる。オレのような遍路のためにそうしてくれているのかもしれない。さすがお大師さん生誕の地。ケチなことはしない。

昨日の日記をホームページにアップして、6時半に出発。金倉寺（こんそうじ）へは3キロほど。少し早いが、日曜だし団体さんも多いだろうから、早めに廻りたい。

金倉寺に着くと、もう他の参拝客がいる。朝早くの寺はいい。

朝の寺が一番寺っばい。

雨は降りそうで降らない。

次の道隆寺（どうりゅうじ）へはここから4キロほど。この辺りは本当に寺の間隔が短い。郷照寺（ごうしょうじ）天皇寺（てんのうじ）国分寺（こくぶんじ）もそんなペースでスイスイ廻る。本当にスタンプラリーのように思えてくる。

国分寺を出てすぐのところに「三嶋」といううどん屋があった。入らないわけにはいかない。

11時前。ちょっと遅い朝飯にする。

生まれて初めて“生じょうゆうどん”を食べる。

麺だけがポンと出て来て、しょうゆをかけて食らう。うどん史上最もシンプルかつ安価なメニューだ。

大盛りで220円！バカ安！

具などなにもないので大盛りの割にはもの足りないが、麺そのものを楽しむにはすごくいい。

白峯寺（しらみねじ）へは少し山を登らないといけない。

ここでは毎日のように山登りを強いられる。

昨日弥谷寺でいただいた温シップがよく効いている。

それと少し暑い今日はチノパンをはいて（いつもはショートパンツ）膝を冷やさないようにしている。これも良かったのだろう。

調子よく上り続ける延々5キロ。

自転車に乗っているときというのはいつも何か考え事をしている。

香川県に入ってからこのこれまでのところは、距離が短か過ぎて思考には向かなかった。これくらい時間がかかるといろいろと考えることが出来る。

何を考えているのかと言われれば、それもよくわからないが、何かを考えている。

オレは（たぶん他の人も）考えないで生きることなどできない。何も考えないで、あるがままに生きられたらそれは幸せな事だけど、オレは考えてしまうから考え続けるしかない。

白峯寺に到着。この瞬間からは少し雑念は置いておいて、手を合わせることに般若心経だけに集中できる。

時々ポツリポツリと降っていた雨が、一瞬だけ強くなった。が、また止む。

再び自転車に跨ると思考が開始される。

根香寺（ねごろじ）へも山道に行く。日曜は他にもお遍路さんが多い。オレの横を車でビュンビュン通り過ぎて行く。香川ナンバーが一番多いのは当然として、神戸ナンバーが意外に多い。四国4県以外ではダントツに多いだろう。理由はなんとなくわかるが、それを詮索するのは愚だろう。

オレも他の人たちもそれぞれの思いがある。

根香寺は石段が続く。前に行くおばちゃんのひとつひとつわざわざ数えて昇っている。それを聞いていると余計にきつく感じてしまう。

#どうでもいい話だが「昇る」「上る」「登る」の使い分けがいまいちわかってないかもしれない。間違っても勘弁してほしい。

時刻は14時。

まだ早い。次の一宮寺で今日は終わることにする。その次はロープウェイも用意されているようなところだからだ。横峯寺のときのようなことがあるから、こういうところは朝早くから出たほうがよい。

ゆっくりのんびり進む。ここまで坂道を登って来たから後は下るしかない。この旅の最高速度時速50キロを出して（全然“ゆっくりのんびり”じゃない！）下る。

下った町でうどん屋をみつけてしまう……。もちろん行く！

かけうどん特大（大盛りの上）350円。金銭感覚がマヒしそうな安さ。

そう、ここはうどん天国。

．．．．．

---

一宮寺へ着くとやはり団体のバスが多い。一通り参拝をすませ、寝床探しのために高松の場所を地図で確認していると7、80のおばあさんが

「これな、お接待やけん」

と言って150円手渡してくれた。

彼女はお遍路さんである。お遍路さんにお接待を受けるのは初めてのことでとまどいながらも有難くいただくことにした。彼女の気持ちがよく分かる気がしたからだ。

彼女は団体のツアーバスで廻っているようだった。しかし、この団体ツアーというのがくせもので、ほとんどが5、60のおばさん。こういう人たちがばかりが何十人と集まれば、もう“みのもんだ現象”が起きるに必要な条件は満たされている。

「ありがたいことで一、わーあっはっは」「あんたそれ、ご利益あるわあ一、わーあっはっは」すれ違うとき、こちらからあいさつしても自分たちのおしゃべりに夢中で、5人に1人あいさつが返ってくればいい方である。そんな状態だから、心から供養や願をかける人に団体ツアーは向かない。

彼女はその団体の中で明らかに浮いていた。年齢から察して、旦那さんが亡くなったとかそういう理由での供養の旅であるに違いない。しかし、その気持ちとは裏腹の団体ツアーの性格に、やりきれない思いでいっぱいなのだろう。

彼女のような歳にもなると、歩いて廻るようなわけにはいかない。

どうしても車を使った方法を選ぶことになる。

バスじゃなかったら、タクシーを借り切って廻る手もある。そういう人もいっぱいいる。

しかし、詳しくは知らないが相当な金額が必要になるに違いない。

なるべく金をかけず、しかも車で、となると団体バスツアーしか選択肢はない。しかし、バスツアーはこのような状態である。

彼女も本当はオレのように一人で自転車や歩きで廻ることが出来たら、そうしたいに違いない。

これはそういう意味でのお接待なのだと思う。

150円だから、ジュースでも・・・ということかもしれないが、もっと有効に使いたい。

コンビニで全部10円に両替してもらい。明日からのお財銭にすることにした。

こうやって、元気に自転車で廻れることを、もっと感謝しないといけないと痛感する。

## 9日目 阿波路へ

高松駅付近 → 84屋島寺 → 85八栗寺 → 86志度寺 → 87長尾寺 → 88大窪寺

走行距離 80.9 キロ

トータル 871 キロ

昨日は、寝ている間ひどい雨が降っていたが、起きると快晴！お見事！誰かに感謝したいので、とりあえずお大師さんに感謝する。

「アーメン・・・」

違うっつーの！

嗚呼！！ボケても誰もつつこんではくれない・・・。こんな生活も9日目に入る。

今日は2つの難関を控えている。八十四番札所屋島寺（やしまじ）と八十五番札所八栗寺（やくりじ）。ともにロープウェイを備えている。・・・が、もうそんなオプション的な出費は抑えることにした。

屋島寺は高松市街から意外と近い。5キロほどで麓にたどり着く。

舗装はされているが上りがきつい。あまりのきつさに自転車は置いて歩くことにする。

思ったほど遠くはなかった。

なぜだろう？参拝者が多い。子どももいる。学校は？平日なのに。10月9日。はて？昨日運動会でもあって今日は振替休日なのかな？サダコ（PalmVx）のカレンダーをしてみる。体育の日。あー、そうか・・・。体育の日は10月10日というイメージしかないから違和感があるけどそうなのだ。

八栗寺へ向かう途中でも子ども連れを多く見かける。オレも中学に上がる頃、こういうふうに親に連れられて来たんだなあー、などと考える。確かにこの屋島寺、八栗寺あたりへは“来た”という記憶はあるのだが、その風景はもう忘れてしまった。



八栗寺（であったと思う）。

トイレの鏡を利用してパシッ。

場所も写真もオレも汚い。

八栗寺も屋島寺同様途中で自転車を止めて歩くことにする。少し行くと、若い女性が一人で歩い

ているのが見えた。ぜひともお近付きあそばせたいところだが、何か（精神的に）重いものを背負っているとちょっと面倒なのであいさつだけにする。

八栗寺もやっぱり人が多い。例によって団体さんもいる。もうあまり関わりたくないの、あいさつだけしてするするとすり抜けるように歩く。泣く子とおばさんには勝てぬ。

八栗寺から志度寺（しどじ）へは少しある。途中、うどん屋を見つけてしまったのではいってみる。実は八栗寺の途中でも食べていたので、今日2食目。麺がふにゃふにゃ。といっても福岡の“牧のうどん”くらいのかたさはあるのだが、もうそんなものはさぬきうどんを食べ続けているオレにとってふにゃふにゃ以外の何者でもない。

さて店を出ようとするすると雨が降って来た。どしゃぶり。あんなに晴れていたのに……。かみなり雨なのですぐに止むだろうと思い、しばらく店の中で雨やどりをさせてもらった。しかしいっこうに止みそうもない。店も混んできたので、カッパを着て店を出る。

雨。肉体的にも精神的にもこれが一番困る。きっと“うどん食い過ぎ”の罪に処されたのだろう。ならば本望、とばかり自転車をこぐ。

志度寺は八十六番、長尾寺（ながおじ）は八十七番。本来の廻り方だといよいよ大詰めである。こころなしかすれ違う車のドライバーの顔が「あと少しだ。がんばれ！」と言っているように思える。「違うんだよ！まだまだなんだよ！」といちいち言いたくなる。そう書いた旗でも立てて走りたい気分だ。

長尾寺を出るところには雨は止んだ。

今日は八十八番札所大窪寺（おおくぼじ）までの予定。雨で足留めをくらったので少し急ぐ。八十八番は結願（けちがん）の寺。歩き遍路を追い越して行く。とても満足そうに見える。向うもそう思っているかも知れないが、オレは違う！オレは五十三番という何とも中途ハンパな寺で結願する。

大窪寺へは16時50分に着く。あぶないあぶない。この寺はいかにも八十八ヶ所廻り終えた遍路を迎え入れようという雰囲気漂っている。オレもふと、終わった一という気分させられるが違う。まだまだ終らない。

早いところ下山しなければ、こんなところで夜を明かすことになる。野宿も慣れたとはいえ、こんなところで寝るくらいならオレは死を選ぶ。

一目散に下山する。

.....

このあたりからもう徳島になる。さぬき（うどん）ともおさらばだ。

麓の町に温泉があるらしいので探すが、今通っている道は軽く逆打ち方向になる。

「死国」のせいだ！もう暗くて怖くてやめた。

コインランドリーで洗濯中に、徳島にいる高校の時の同級生のキム（木村）に電話する。

「もしもしキム？岡田や。」

「おう！どしたん！ひっさしぶりやなあー」

「今徳島に来とるんじゃ」

「ほうほう」

「四国八十八ヶ所まわりよってなー」

「あんたも好っきゃなー」

ってな話で久しぶりに身の上話で盛り上がる。彼は今年七五三（三のほう）をむかえる子どもの父親だ。奥さんは昼間は大学院に通っている。まっ、オレはオレで、彼は彼でがんばっていこうということで電話を切る。

残念ながら都合がつきそうにないので直接は会えないが、少し元気になった。

明日は一番札所霊山寺から。また、新たな気持ちで走り続けよう。

みなさんメールをありがとうございます。あいかわらず返事を出す余裕がないのですが、ありがたく読ませてもらってます。

激励以外にも、有益な知恵袋的なアドバイス、たいへん助かっています。

あと「今日オレは初ヘルスに行った」という、どうでもいい報告も“わざわざ”ありがとう。

## 10日目 四国7日目

---

1霊山寺→2極楽寺→3金泉寺→4大日寺→5地藏寺→6安楽寺→7十楽寺→8熊谷寺→9法輪寺→10切幡寺→11藤井寺

走行距離47.7キロ

トータル929キロ

今日は何と言うか、その、どう表現していいのか・・・早い話が楽チンだったわけで・・・。

このうどんはまずくて高いわけで・・・。

これだけ(11霊場)廻って、14時にはもう終わってしまったわけで・・・。

それで、何をしていたかと言うと、溜ったメールの返事書きをしていたわけで・・・。

なぜそんなに余裕なのかと言うと、イヤそれは間違っているわけで・・・。

次の札所のことを考えたくないわけで・・・。

人生、楽あれば苦があるわけで・・・。

お父さん、こちらの夜も寒いです。

ああ、今日は楽チンチン。

ちょっと寝坊したなーと思いつつ7時半くらいに1番札所霊山寺(りょうぜんじ)から廻る。

順路としては、吉野川を上流に向かう感じ。

しかし静かだ～、このあたり。

昼間だというのに、人の気配もあるのに、聞こえるのは虫の泣き声と遠くに走る車の音だけ。

いったいこの町のどこに「可動堰ハンターイ!!」などというパワーがあるのだろうか?と不思議に思えるくらい静かだ。

静か過ぎて眠くて眠くて、ウトウトしながら廻る。

十楽寺(じゅうらくじ)だったか(それさえも覚えてないくらいに眠かった)、50くらいのおばさんがチーンチーンと鈴にあわせて何か子守歌のようなものを歌っている。

どうやらそれもお経の一種のようだったが、これがとても気持ちいい。

眠気に拍車をかける。お経をあげるフリをして聴き入ってしまった。

今日の予定は十一番札所藤井寺(ふじいでら)。これが13時半には終わった。

それなら次へ行け!と言われそうだが、そうはいかない。次は焼山寺(しょうざんじ)。正午過ぎて向かうのは自殺行為に等しい、というくらいの難所だ。

地図で確認したが、横峰寺の比ではないかもしれない・・・。

はっきり言って、明日が来るのが怖い。いったいどれくらい時間がかかるのだろう。生きて帰って来られるのか?

ちょうど中だるみするころだし、今日はもう(20時すぎ)寝床を探して寝る。そして、朝早くに起きて万全の体制で出発したい。今日だけは携帯の目覚しをセットしておく。

そういうわけで、今日はこれまで。



おやすみなさい。

## 11日目 四国8日目

---

12焼山寺→13大日寺→14常楽寺→15国分寺→16観音寺→17井戸寺→18恩山寺→19立江寺

走行距離108.1キロ

トータル1039キロ（ついに1000キロ越えた）

今日は警察に起こされちった☆

洋服の青山の駐車場の片隅で寝ていたら、なんかマブシい。重いまぶたを開けるとそこにもまぶたが・・・いや、ヘッドランプが。

「おい、何しとる。」

状況は完全に把握できていたけど、

「へっ？」

と寝ぼけたフリしてみたりする。

「コレで旅しとるのか？」

オレ様のサダコ（自転車）を“コレ”呼ばわりしやがって！と思っていると

、そこに2台3台とパトカーが増えていく。2人×3台の6人でオレを囲む。しがたお遍路相手に6人はないだろう。尋常じゃないな。何か事件でもあったのかもしれない。変に疑われるのは迷惑なのでおとなしく住所などを答えていく。

「こんなところおったらイカンで」

「はい・・・」

「それからそれ。この電源はこの店のものなんやから、勝手に使こたらイカンののはわかるな！」

「（しまった！）あっ、はい・・・」

「せめてJRの駅にしとけ。でも何かあっても、警察がいい言うたって言うたらイカンで！」

「（そのときは絶対言ってやる！）はい・・・」

そう言って警察は去って行った。時計を見るとまだ23時だ。

クソー！と思いつつ、次の寝床を探す。

実は警察から無人の駅を教えてもらっていたのだけど、遠い！冗談じゃない！

近くによさげな場所を見つけて、1時ごろ、再び寝に入る。

変な夢を見た。

ひとつは、TUBEの前田となぜか仲が良くて、前田に

「オレ、TUBE嫌い・・・」

と、打ち明けられてしまった夢だ。しかもBGMはサザン。

寒すぎて、夏が恋しいらしい。

もうひとつは、山道を歩いていると、白いヘビに出会う。棒でつついて遊んでいると徐々に怒ってきて襲われそうになる。こいつはマムシだったのだ！

逃げようとして振り向くとそこにも白いマムシが二匹。「ガブッガブッガブッ」噛まれた。

夢に白い蛇が出てくるのは良い、と聞いたような気がするが、噛まれたことで相殺された。

たぶん昨日、寺の移動中にハブとマングースならぬヘビとイタチの戦いを目撃したせいでこんな

夢を見たのだろう。

変な夢で目が覚めて、今朝は4時に出発。

寒く暗い山道を進む。といっても、ほとんど自転車を押して歩く。怖い。

もう少し遅く出れば良かった・・・。

車は通らない、外灯はない。実は昨日、自転車のライトをダイナモ式（車輪の回転で発電するやつ）から、電池式に取り換えていた。

何となくそうしてみたのだが、いきなり役に立った。

こんなところにも民家があって、それが余計に怖い。

犬に吠えられる。うるさいな～と思っていると、すごい勢いでチャッチャカチャッチャカ足音が近付いて来る。

犬が追いかけて来たのだ。

「放し飼いにするなよ～」と思いながらも怖いので、自転車にまたがり全力で逃げる。

が、坂道。そうは逃げられない。

足元で犬がワンワン吠える。

「頼むから噛まないでくれ」。さっき夢でへびに噛まれた印象が蘇る。

幸い、噛まれることはなく、犬もくたびれたのかついて来なくなった。

もう犬なんかかわいがってやらん！

また歩き始める。暗い。

意味もなく汗がダラダラ出る。

このあたりにも平家の落武者は逃げて来ているはずだよな一、などと考えて余計に怖くなる。

墓を通り過ぎる。

ああ～、もう怖くて気が遠くなりそうだ。

空は徐々に明るくなっていくが、この道は山の北側にあり、依然暗い。

峠のてっぺんにたどり着くと一気に明るい道がひらける。ホッと一息。「神山町」と標識がある。

神でも仏でもいいが感謝だ。

焼山寺（しょうさんじ）へはこれを下って、さらにもうひと山登らないといけない。



焼山寺への道すがら。

朝霧がきれいなベストショットのはずだったが写りが悪い。残念。

しかしオレの体力はひとつ壁を越えたようだ。このくらいの坂道ならもう何ということもない。

6時間かかってようやく焼山寺へ。

午前中に難関を突破していれば、午後はたやすい。ほとんど勢いだけで大日寺（だいにちじ）から立江寺（たてえじ）まで予定通り。16時50分に終了。すばらしい！だんだん、地図を見ただけでどこまで行けるか、何時に終るかの見当がつくようになった。

さあ寝床探し。昨日のようなヘマはしないよう、慎重に選定する。

JA立江前。人気も少なくよさげだ。

なにぶん、しばらく風呂に入っていない。どれだけ入っていないかというと、前に温泉（in 西条）に入ってからだ。

今日は暖かいので、JA立江の蛇口を使って洗濯とシャンプーをする。

水代くらいは許してくれ。

明日は阿波の三難所のうちの2つをまわる（もうひとつは今日の焼山寺）。

難所難所といっても、ガイドブックがそう言っているだけで、実際のところはわからない。

壁を越えた体力にものをいわせ、がんばってみよう。

## 12日目 四国9日目

---

JA立江前→20鶴林寺→21太龍寺→22平等寺→23薬王寺

走行距離68.3キロ+歩き数キロ

トータル1107キロ

4時前に起きる。

昨日日記を書かずに寝たのでそれを書き上げ、JA立江をあとにする。

昨日オレが洗い流したシャンプーのにおいが辺りに残ってて気になるが、まああれだ、犬が縄張り確保のためにしょんべんするのと同じで、オレがシャンプーのにおいで縄張りを示しといたから、もう今後誰も寄り付かないだろう。安心してください。

第二十番札所鶴林寺（かくりんじ）へはおよそ20キロ。阿波第2の難所。

難所と呼ばれるだけのことはある。

登るは登るは歩くは歩くは、20キロのうち半分は自転車をこげず、押して登った。

しかし、到着したらしたで、な～んのこともない寺。そういうと失礼なので、少しでも良い所を探そうとするけども、やっぱりな～んのことはない。こればかりは仕方がない。

二十一番札所太龍寺（たいりゅうじ）。阿波の難所3番目。

これはすごかった。

鶴林寺が“登るは登るは歩くは歩くは”ならば、何と表現しようか、登るは登るは登るは登るは・・・歩くは歩くは歩くは歩くは・・・坂は急だはで、あれほど恐れて行った焼山寺がかすんで見える。

しかしそれでも、オレ史上最強を誇る今のこの肉体はものともせず向かって行く。

我ながら見事と言う他ない。

おかげで、精神力と体力のバランスはズレてきたけど、体力がこうやって引っ張ってくると精神力はとっても助かる。

約3時間かけて登った先はこれまた見事だった。ホント鶴林寺には悪いが、比べものにならない。静かなんでもんじゃない。自分の足音と息づかい以外には、何も聞こえない。足を止めると

「シーーーーーン」

息を止めると

「シーーーーーン」

ときどき

「まあ～このあじさいはきれ～で～。ここは花がほんっときれいやな～。」「ほんっとな～。

」

という雑音とロープウェイの音がきこえるくらいのもの。

目はちょっと暗い所で目を閉じればもう真っ暗になるし、においは鼻をつまめばにおわなくなる

。

しかし、何も聞こえない状態というのはなかなか味わえるもんじゃありません。

普通、耳をふさいだところで、心拍音や何か雑音が入ったりするものだ。  
ここならよほど興奮して心臓がドキドキ鳴っていない限りは、無音。っていうか“無”。

いろんな寺を見て来たけど、中には町なかの、よく注意をしていなければ見落としそうな寺や、八十八ヶ所霊場でなければ誰も訪れないのではないかとさえ思われる寺もあつたりする。  
でも、そういう寺があるからこそ（これまた失礼な話だが）この寺の存在がひとときわ際だつ。  
うーん。気分がいい！こういう所は登ってもその甲斐がある。いや・・・他の寺にはホント失礼なんだけど・・・。

太龍寺から平等寺（びょうどうじ）に向かう途中、パンを買う。  
うどんに別れをつけてからというものの、朝昼はずっとパンと水（水道水）。  
水はペットボトルに入れてカルキをぶっとばすもの（110円で6～7回使える）を買ったので、水道水でもそこそこうまい（気がする）。  
何しろこの旅で一番金がかかっていたのは飲み物代だから、このケチっぷりは効果絶大だ。  
それに人間の体は穀物と水だけでも生きていけることをオレは経験から知っているから大丈夫だ。  
。

それにしても、どうもこのあたりではヤマザキパンが幅を効かせているらしい。だから昨日も今日も同じクリームパンとあんぱんになってしまう。違うものを買えばいいのだけど、クリームパンとあんぱんが食べたいのだから仕方がない。  
平等寺へは10キロちょい。この寺はまあ何と言おうか、太龍寺の存在を引き立たせるにふさわしい、というか。

次の薬王寺（やくおうじ）へは20キロ。  
ここは来たことがある。おやじの厄年の正月元旦早々に連れられて来た。はっきりと覚えている。正月なので、俗に言う“族”がいっぱいいた。  
ここは厄ばらいで有名な寺。今日は平日だというのに人が多い。誰かの厄をはらおうと思ったけど、身近に見当たらないのですり抜けるようにしてお参りを済ませる。

これで徳島の霊場は終了。明日から高知。時刻は15時。まだ早いけど今日はここまで。次の札所へは90キロもあるのだ。

すぐ近くに温泉を見つける。  
もうなんせこの汗臭さといったら、これまたオレ史上最強だろう。風呂に入るのはかれこれ1週間ぶりになる。これもオレ史上最強だ。  
風呂はいい！こんな気持ちいい風呂は初めて。体の隅々まで念入りに念入りに洗う。なぜなら、明日はオレがこの旅で一番楽しみにしていたある場所へ行けそうだから。

今日はテンションが高い。日記もスイスイ書けた。  
今から、その場所へ少しでも近づくためにまた自転車をこぐつもり。もう19時前だけど、せっかく風呂に入ったのだけど、構わない。行けるところまで行く。  
どこへ行こうとしているのかはまだ秘密だ。

## 13日目 四国10日目御蔵洞へ

---

牟岐駅付近 → 24最御崎寺 → 25津照寺 → 26金剛頂寺 → 27神峯寺 → 南国市

走行距離149.4キロ＋歩き数キロ

トータル1271キロ

今日はビジネスホテルだ！久しぶりにふとんで寝られる。

なぜ今日はホテルなのかというと、今日はオレの誕生日の1日前、“バースデーイヴ”だから。誕生日である明日にしてもよかったんだけど、明日からは新たな気持ちになれるように、今日はゆっくりと寝たい。

昨日は日記を書いた後、20キロほど足を延ばして牟岐（むぎ）という町の駅近くのショッピングモールのようなところの駐車場に落ち着く。

寝る前に司馬遼太郎の『空海の風景』を読み返す。荷物にはなるけど、これだけは持って来た。“求聞持法”について書かれているところを探す。求聞持法というのは、“記憶力をつけるために虚空蔵菩薩という密教仏にすがり、その菩薩の真言（呪文のようなもの）を一定の方法でとなえる”秘法である。

空海（お大師さんを歴史上の人物としてとらえる時は“空海”の方がいいでしょう）の自伝的戯曲『三教指帰』に

阿国大滝岳にのぼりよぢ

土州室戸崎に勤念す

とあるらしい。

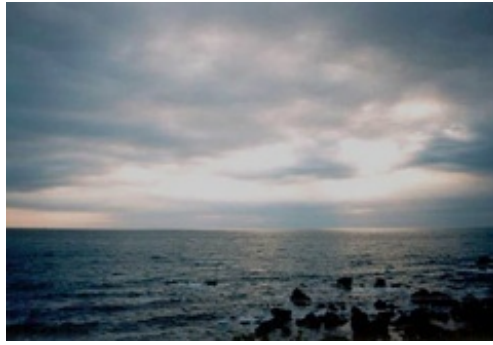
つまり、19才の空海は阿国大滝岳と土州室戸崎で求聞持法によって、何やら悟ったらしいのである。この本を読み返してようやく思い出したのだけど、阿国大滝岳というのは昨日行った二十一番札所太龍寺である。確かにあそこの静けさはそういう雰囲気があり、妙に納得がいく。しかし、空海にとっても重要だったのは大滝岳よりも土州室戸崎の方だったようで、ここの洞窟の中で求聞持法を行っていた空海は“天にあった明星が確かに動き、みるみる洞窟に近づいて、すさまじい衝撃とともに空海の口の中に入ってしまった”らしいのである。もちろんそんなことが実際にあったかどうかはわからないが、それに近い、何らかの衝撃が空海の中に走ったことは確かなのだろう。

人が何かを悟ったり何かを決意する時のその風景とはどんなものなのだろう？と、何かを決意出来ないでいるオレは思う。

今回の旅で一番楽しみにしていたのが、この室戸岬の洞窟（御蔵洞）である。

御蔵洞（みくらどう）は次の札所二十四番最御崎寺（ほつみさきじ）の近くにあるらしい。朝、早めに4時に起きると、国道55号線の60キロの道のりを延々南に下る。

もちろん空海のところはこんな道はあるはずもなく、平地という平地もない険しい道を、求める場所を探して歩いていたのだろう。今ではこの国道55号線ができ、緩やかなアップダウンはあるもののほとんど平坦で、右手に山、左手には海があり、自転車も快適に走れる。



室戸岬へ向かう道からの海。

司馬遼太郎のこの『空海の風景』は、オレの中でもベスト5に入る名著だと思う。おそらく、この本を読んでなかったらこの旅はなかっただろう。

これに書かれてあることは、実際に司馬先生（あえて“先生”）がみた“風景”なのである。

司馬先生の尊敬すべきところはそのハンパじゃない知識量ももちろんそうだが、自分の足で確かめ、そして自分流の考察を臆することなく、ズバッと言い放てるところだ。それがたとえ史実に合っていないとしても、自身の目で確かめた上での考察だから説得力があるし、文句のつけようがない。

『空海の風景』というタイトルにも、そんな司馬先生の“史実がどうだか知らないが（実際はよく知っているんだけど）オレは空海をこう見たんだ！”という自信がうかがえる。

それはもともと新聞記者だった司馬先生ならではのことかも知れない。

オレも、（知識はないものの）自分の目で確かめ、空海を感じたい。しかも、誕生日を明日に控えた今日、見たいのだ。

旅に出る前から、そうなればいいなあーと思っていたのが現実になってきた。

南へ南へ。

それにしても、このあたりの人は平気で犬を放し飼いにする。今日もまだ暗い国道で追いかけられ、スリルを味わった・・・。

左手の海のかなたの水平線から日が昇っていく。絶景だ！早起きの甲斐があった。空海も見た“風景”に違いない。

太陽を見ると急に腹が減ってきたが、このあたりあまり店がない。なによりまだ開いていない。ガマンして進む。

ほとんど休憩も入れずペダルをこぎまくる。

途中、マウンテンバイクを追い抜いた。ママチャリがマウンテンバイクを追い抜く様は何とも言えないものがある。



.....

高知県に入り、やがて室戸市に入った。

走行距離が60キロになろうとしている。もうすぐだ。ガンガン進む。

しばらく走って、ふと、今通り過ぎた看板が気になった。引き返してみる。

『御蔵洞』

よく見ると洞穴もあるし、案内板には弘法大師が求聞持法をうんぬんとある。

えっ？ここ？

ここなの？しかも国道沿い？こんなところ？

思わず通り過ぎるところだった。もっと険しい山道を歩いて行くものだと想像していた。

あっけない。



御蔵洞。外観。

確かにここなのだ。空海の修行の場は。

洞窟の中に入ってみる。

空海の名の由来はここから見た“空と海だけの風景”からだと言われている。それを見たかった。しかしそれから1200年以上の時間が過ぎ、オレの見た風景にはもうひとつ、“道（国道55号線）”があった……。

オレのロマンはどうしてくれるんだ！

快適！快適！と喜んで走っていた道が、今は恨めしい。いちおう洞窟の中からの眺めは写真に撮ったので、家に帰ったらパソコンに取り込んでフォトショップで道を消してやろうか！？と本気で考える。ヤケだ。



御蔵洞の中から眺める。

向こう側に微妙に道が見える。その向こうは海。

もちろん画像処理はしてない。

それともうひとつ、あれっ？と思ったことがある。

オレは、ここで空海が感じたであろうパワーのようなものを何も感じられなかった。国道のせいだろうか？

それはあるにしても、少くく何か感じてもいいはずだ。もともとここにあったエネルギーは、もう空海が全部吸い取って持って行ってしまったということだろうか？

「自分の場所は自分で探みなさい！」

そう空海にささやかれた気がする。

そう解釈することにしよう。

二十四番札所最御崎寺へはそこからすぐ。自転車を置いて山道を登る。

しかし暑いぜよ！これぞ南国土佐ぜよ！

司馬遼太郎が“なぜ空海は、いかにも修行に似合いそうな雪国の山奥ではなく、こんな暖かい土佐の海岸を選んだだろう？”という疑問に関して考察を与えていたのが思い出される。

境内は室戸岬のホントに先っぽにあった。灯台にも近いので行ってみた。

オレは愛媛に生まれ育った。

で、思うのだけど、同じ四国でもこの高知と愛媛では、風土というか、人間の気質が全然違う。もちろん、人ひとりひとりを見ればそれぞれなんだけど、高知の人はさすが坂本龍馬という偉人を生んだだけあって、ベクトルが外に外に向いている気がする。

高知は龍馬をはじめ、偉人や政治家、有名人を多く生んでいる。

現在でも、ちょっと芸能人の名前を挙げて結構な数になる。

愛媛はベクトルが内へ内へむいている。有名人、偉人の類はほとんど見当たらない。

その違いというのは、見て育った海の違いではないかと思う。

愛媛は瀬戸内海、宇和海をはじめとする“内海”に面している。高知は、この大きな外洋、太平洋だ。龍馬が太平洋の彼方のアメリカをあこがれたように、高知の人は外に目を向ける“余裕”のようなものがあるのではないか。これは愛媛では育ちにくい感覚だろう。これは、どっちが良いか悪いかの話ではない。風土というものはそういうものだ。

ただ、オレは小さい頃、よく親父に連れられ何度もこの高知に来ていた。

足摺岬や桂浜（坂本龍馬の像がある）はもう何度来たかわからない。

親父はオレに、愛媛のような内海だけでなくこのような外洋があることを教えたかったのかもしれない。

最御崎寺を出て津照寺（つしょうじ）、金剛頂寺（こんごうちょうじ）と廻る。

距離はそれほどない。

金剛頂寺の次は土佐の難所といわれる二十七番札所神峯寺（こうのみねじ）。時間は正午をまわっていたが行くことにする。難所、関所の類は毎日のことだ。もう怖れることもない。

.....

20キロの道のりの途中で腹が減っていることを思い出し、店を探す。何とか商店という薄暗い店を見つけ、ちょっと躊躇するが空腹には勝てない。

幸いパンはあったので3つ買って外に出た。

しかし、さあ食べようと思いパンをよく見ると、出た、イナカマジック！賞味期限が昨日ではないか。

それも3つとも。

おっさんもそんなことおくびにも出さず「今日は暑いね～」などとぬかしておった。

イナカは時間の流れが違うから、賞味期限の1日2日は関係がないのだろう。ひどいところはカビが生えていたりするけどそれはなさそうなので食べた。

神峯寺は確かに難所であったが登った先には、きれいな庭園があったり、“神峯の水”と呼ばれているらしい湧き水があって、とても疲れをいやしてくれた。

16時。

今日はここまで。

ビジネスホテルを探す。

が、ない！近くの安芸市に行ってみる。ひとつだけ開店休業中なところがあったが今日のオレはそんなところには泊まりたくはないのだ。それなら野宿の方がいい。

それからどうでもいいが、このまちは微妙に阪神色が漂う。

“ちゃんとしたビジネスホテル”を探す。次に行くはずである大日寺も通り過ぎた。

もういい。そんなことは。

オレは“ちゃんとしたビジネスホテル”に泊まりたい！その一心で南国市にたどり着く。

高知市まであと10キロのところにある空港のあるまちだ。空港があるなら“ちゃんとしたビジネスホテル”もあるでしょう！

ようやく1軒見つけ、値段も何もわからないがいちおうちゃんとしているので決めた。

近くでちょっと高めの弁当とショートケーキとビールを買ってひとりの部屋で寂しいお誕生日会をする。

これもまたよし！いい思い出になるだろう。

今日はおかげで149.4キロも走った。明日は少しゆっくり起きて、通り過ぎてしまった（泣）大日寺に引き返す。まあ、10キロ程度のものだからどおってことはない。

寝よっ。

## 14日目 Happy Birthday To Me !!

---

南国市内 → 28大日寺 → 29国分寺 → 30善楽寺 → 31竹林寺 → 32禅師峰寺 → 33雪溪寺 → 34種間寺 → 土佐市内

走行距離70.7キロ  
トータル1342キロ

Happy Birthday To Me !!

今日はゆっくり起きた。

そのはずだった。

ああ、悲しいかな、習慣というやつは・・・。

ゆっくりしていいのに、ゆっくりしていいのに・・・4時に目覚めてしまう。

っんがあ～～～！！

でも、昨日はビールを飲んで、当然の如く眠ってしまったので、日記を書かねば。

そんなこんなで10時にホテルを出る。

快晴。

全然雨が降らん。

いや、香川で2、3時間どしゃぶり、というのはあったが、四国に入ってからというもの“雨が降った”と言えるのはそれだけ。

オレとしては願ってもないことなんだけど、こうも降らないと心配になる。なんとなく。

昨日、ホテルを探すために2つほど札所を通り過ぎて来たので、まずは引き返さないといけない。二十八番札所大日寺（だいにちじ）。

町なかというわけではないが、山奥ではないので、難なく到着する。寺らしい寺。寺的には申し分ない。土曜なのでやはり団体が多い。

二十九番札所国分寺（こくぶんじ）。

大日寺から10キロほど。

この土佐は“修行の道場”と言われるだけあって、1つ1つの寺の間隔が遠く、香川や徳島のようにとんとん拍子というわけにはいかない。

10キロというのは近い方で、5、60キロは当然、というところもある。

その中では、今日廻る予定の所は比較的近い。

国分寺から三十番札所善楽寺（ぜんらくじ）までは11キロほど。これが今日一番長いのだがそれでも大したことはない。

寺の間隔が長いとそれだけ考える事も多い。雑念も多い。まさに修行の道場。

正直に言って、今、中だるみである。

ゆるゆるなんです・・・。ワタシ。

なので、どうしても地図で近い道近い道を探しては、ラクしようラクしようとする。

で、結局遠回りになる。

ものごとの道理というか、そんなこと“急がば廻れ”なんだけど、そうはわかっているけども近道を探してしまう。で、結局遠回り。その繰返し。

これも修行だな。

“修行”というのは便利な言葉だと思う。どんな困難があっても「これも修行だ！」と思えば、その困難を受け入れることができる。

三十一番札所竹林寺（ちくりんじ）へも“修行”だった。そもそもオレのなまけが悪いのだけど、近道を探して一方通行を逆行してしまい、何度も危険な目にあった。

三十三番札所禅師峰寺（ぜんしぶじ）から三十四番札所雪溪寺（せつけいじ）へ向かう途中、桂浜を通り過ぎる。坂本龍馬像がある。ゆるゆるなオレはそこには行かなかったが、浜からぼーっと海を眺めていた。チュッチュチュッチュやっているカップルもいれば、ピョンピョンバック転しているやつもいる。

しかし何なんだ！この水平線！

龍馬も見たのだろう、この海を。あるいはお大師さんも見たかもしれない。背後の町並みがどれだけ変わっても、この海の風景だけは変わらない。

やっぱりいいぜよ～！たまらんのう～！

この時代に生きているオレでもこれだけゾクゾクしてしまうのだから、まだ開国間もないころ、外国の様子を耳にし、この水平線を眺め、その向こうのまだ見ぬ異国を想う龍馬の胸中はどんなだっただろう。

目前に太平洋。背後に日本。

葛藤だったかもしれない。

オレは愛媛に生まれ育ち、いま福岡に住んでいる。太平洋とは“とんと”縁のない人生。オレの辞書に“太平洋”という文字はない、というくらい縁がない。太平洋を見るのも何年ぶりだ？というくらい。それだけに今こうしてドドーンと対峙すると“感動”という他に言葉は見つからない。昔来た時には微塵も感じなかったのに、やはりこういう時だからだろうか？記念すべき（？）20世紀最後の誕生日だからだろうか？自然と涙が出そうなくらいの感動を覚える。あれこれ考えるより先に、この海へとポーンと身を委ねたくなる。

「お～い！土佐人よ～！オレはうらやましいぞ。おんしらあ、普段は気づかんじゃろ～が、え～海持っとるき～、大事にせなイカンぜよ～！感謝して大事にせにゃあ、龍馬が泣くぜよ～。そんでなあ～、そろそろ第2の龍馬を生まにゃあ～！今の日本は龍馬が欲しゅうて欲しゅうてたまら

んのじゃ〜！」

心の中で叫ぶ。

ああ〜、アア〜、嗚呼〜、ah〜、どれだけ言っても、この拙い文章ではこの感動は表せそうにない。

最高の誕生日になった、一生忘れない。

とだけ言っておこう。

三十三番札所雪溪寺。何ともこの南国に似あわない名前。

三十四番札所種間寺（たねまじ）・・・。

ごめん。お大師さん。今日はもうあの海の余韻で胸がいっぱいじゃあ。今日はここまでにさせてくれ。

でも、あの海に巡り合わせてくれた事、心から感謝します。ありがとう。

あっそうそう、報告せねば。

こっちの海は最高です。でもあまりいい波はありません。っちゅか、どんなのがいい波なの？>  
丘ボーダーとりまん

## 15日目 四国12日目

---

土佐市内→35清滝寺→36青龍寺→37岩本寺→中村市内

走行距離125.1キロ

トータル1473キロ

まさに修行の道場。  
寺の間隔が開き過ぎ！  
3つしか廻れなかった。

高知市の隣の土佐市で朝をむかえる。日曜大工の店みたいなところ。  
ベンチもある。屋根もある。電源は自販機の裏からなぜか延長コードがペロッと出ていたので、それをベンチまで引っ張って完ペキ。おまけにこのベンチ、ちょうど自販機で隠れる場所にある。こんな完ペキなのは初めてだ！何事も“慣れ”だな・・・。  
やっぱり朝は寒い。しかも、寝ている間に雨が降ったようだ。地面が濡れている。携帯で天気予報を確かめた。6～12時“60%”、12～18時“10%”。非常に微妙だ。覚悟だけはしておこう。

三十五番札所清滝寺（きよたきじ）は遠くない。  
ちょっと早く着き過ぎて6時半。でも寺は断然朝がいい！  
地元の人がウォーキングで来ていたり、お遍路さんでもこの時間に来る人は、どこかすがすがしく、どこか感じのいい人が多い。

三十六番札所青龍寺（せいりゅうじ）へは15キロ程度。まだいいほうだ。朝早いから、道も走りやすい。途中で道を尋ねたおじさんは以前福岡に住んでいたらしい。ちょっとうれしくなる。青龍寺に着いたのは8時すぎ。もう団体が来ている。でも朝の団体はまだ“本領”を発揮できていないので、比較的夕チがいい。

青龍寺から三十七番札所岩本寺（いわもとじ）は60キロ近くある。浦ノ内湾という大きな入り江に沿って、西へ西へ。昨日の水平線は最高だったが、こういう入り江の風景もなかなかいい。途中腹が減ったので、“何とか商店”という田舎にありがちなお店に入る。パンを3つ選び賞味期限を確かめる（これ重要！）。オッケー！

レジでおばさんにお金を渡しているとかん高い声で

「い～まアサリとってきて味噌汁にしたんよ～。食べてく～？よかったらごはんも～。」

「あっはい。ぜひ！」

「ちょっとそこに掛けて待ってってや～。」

と言って奥に入っていった。

その間にもお客さんがひっきりなしに入って来て忙しそう、ちょっと申し訳ない。

おばさんがおぼんを持ってやってきた。

「お口よごしやけど～・・・。」



ど〜〜っさりっ！！

こっちのアサリをちょっと味見程度に、と考えていたのだけど、ご飯からつけもの、おひたし、おかず類、もう本気の朝ご飯だ！せっかく買ったパンが立場をなくして小さくなっている。

「うわっ！いただきます！」

お店の隅にどうやらこういったお接待用と思われるカウンターがあり、そこでごちそうになる。うまい！めちゃめちゃうまい！！

久しぶり（旅に出る前の生活も含めて）に普通のおいしい食事をした。

その間にもお客さんはぞくぞく来ていて、その度におばさんはレジで一言二言お客さんと会話している。

商売上手である。

それも全然嫌味がない商売上手。

あるお客さん（ご近所さんだろう）が、

「コスモス見に行こ〜や〜」

と言うと、

「行く〜！じゃあ明日な〜」

と答え、次に入って来たお客さん（これもご近所さんだろう）に、

「明日、だれだれさんとコスモス見に行くんよ〜。いっしょに行かん〜？」

と、もう誘っている。

「行く行く〜」

ものの5分。これでコスモス見物隊の出来上がりである。

たくましい！！

それにとても気持ちがいい。

だから、こんな普通の商店なのに（と言ったら失礼かもしれないが）客が多いのだろう。

オレも“何となく”だけど、フラッと入りやすそうな雰囲気を感じて入ってきたのだ。そしてお接待にも微塵も遠慮することなく「ぜひ！いただきます！」と言える雰囲気があった。

朝っぱらからいい人に出会えたな〜、と思いながら「ごちそうさま〜」と奥におぼんを返しに行くと、あんなに元気だったおばさんがひとりで寂しく食事していて、なんだかせつなくなった。外に出てから、腹はいっぱいだったけどせっかく買ったのでパンも食べた。ゲプッ。

岩本寺に着くともう14時過ぎ。今日は残念ながらここまでだ。なにしろ次の札所は90キロも離れているのだ。ムリだ！でも少しは近付いておこうと思い、さらに進める。

道中、本当にヒマで（そりゃそうなんだけど）、自転車をこぎながらもいろいろと雑念が入って来る。あることないこと、想像から思い出まで。

やはり生まれ故郷に近付くにつれて、いろいろと思い出すことはある。雑念でしかないんだけど、どうにも止まらない。

40キロほど先にある高知県中村市に着いたところで今日は終わりにする。

明日は50キロ先の足摺岬（四国の左下あたり）にある金剛福寺から。これで太平洋とはおさらばになるだろう。

愛媛入りはまだ微妙なところだ。

結局雨は降らなかった。15分の13の確率で雨が降っていない。すげー！

## 16日目 ふるさと愛媛へ

---

中村市内→38金剛福寺→39延光寺→40観自在寺

走行距離185.1キロ

トータル1658キロ

昨日の寝床も最高の条件だった。もうポイントをつかんだので、野宿に困ることはないだろう。

今日はとにかく走って走ってそれしか取り柄がないかのような一日。

まず始めに三十八番札所金剛福寺（こんごうふくじ）が50キロ先になる。

これは本来なら90キロあるところを昨日少し足を延ばしておいたおかげで残りが50キロになった。

それでも50キロはある。

朝も明けない5時すぎに中村市を南に向かう。

足摺岬（あしずりみさき）の突端にある金剛福寺へはほぼ一本道。太平洋が左手に見え隠れする道を進む。朝焼けの真っ赤な太陽が欠けて消えていく現象（何と言うか忘れた）を見る。

もーすごい！

今なら、他の何を見ても、もう驚かないだろう。

ずっと自転車をこいでいると、フッと今何をしているのかわからなくなる、という現象も味わう。“ランナーズハイ”みたいなものだろうか？

暗い道では速度を上げ気味になる、という現象も確認した。

居眠り運転車がフラ～っと自分の方に突っ込んでくる現象（？）も体験する。

あれはその先、ホントに事故を起こしていてもおかしくない。死ぬかと思ったぞ！バカやる～！

もう怖いものは団体のおばさんだけだ。

8時前、金剛福寺に到着。しつこいようだが、寺は断然朝がいい。昼過ぎて夕方くらいになると、“俗”なものにおかされたような姿になっているように見えるが、朝はそれもリセットされていて、シンとした雰囲気再び目覚めている。

金剛福寺を出て、来た道とは違う方向に足摺半島をグルっと一周するような形で元の道へ戻り、再び中村市にUターンする。なので、片道50キロ×2。この金剛福寺のために、今日すでに100キロも走ったことになる。

Uターンとなると、これから金剛福寺へ向かう遍路さんとたくさんすれ違う。

ちょっと前に気づいたんだけど、歩き遍路さんはみんな顔が似ている。

お遍路さんになるとそういう顔になるのか、そういう顔の人がお遍路さんになりやすいのかわからないが、よくよく客観的に見れば、オレも同系の顔だろう。

単に、同じような恰好をしているからそう思えるのかもしれないが。

すれ違う人の中には夫婦で歩いている人もいる。

そんな中で、今日骨壺を抱えて歩いている夫婦を見てしまった。

鋭い刃物を喉元に突き付けられたような気分になる。痛い。全然同情はないけど、痛い。

中村市から今度は西へ、三十九番札所延光寺（えんこうじ）まで15キロほど。高知のいいところは、アップダウンがゆるいことだろう。同じ15キロでも、香川徳島あたりとは意味が違う。延光寺に向かう途中、例によって、“何とか商店”みたいなところでパンを買う。しかし、うっかりして賞味期限を確かめるのを忘れていた。

1つ目のパンの期限は15日。

“やっぱりねー”と思いつつまあこれくらいは大丈夫。食べた。

2つ目は13日。“おいっ！”と思いながらもやけで食う。

まあここまではいい。

最後、3つ目のパンを見た。

10月9日

人をなめるにもほどがあるぞ！1週間前やないかい！

もったいないが怒りでグチャツとしてしまう。

腹は立てても腹は減っているので、また近くの“何とか商店”に行く。あいにくパンは置いてなかったのでポテトチップスを買って食べた。

食べ終わってからいや～な予感がして賞味期限を確かめる。

10月6日（もちろん今年の）

ホントにどうなっとんじゃい！この町は！しかももう食ってしまったわい！

あ～腹立つ～！

これも試練なの？んなバカな！？

でも、こう簡単に腹を立ててはイカンのだろうな。けど、これを腹立てずに何に腹を立てようか！？プンッポンッ！！

気分転換に久しぶりにウォークマンを聴く。いろいろ試したが、海岸線にはやっぱりサザンが合う。“合う”というか、もう合い過ぎて笑えてくる。

サザンのあの120%確信犯的ベタ夏音楽はアツパレというしかない。

さっきの口直しに（・・・？）マックでウィークデースマイルする。平日ニッコリ。

いつもハンバーガーとチーズバーガーを2つずつ買うのだが、わざわざチーズバーガーを買うことに懐疑的になっていたのので、どさっとハンバーガーだけ5つ買う。値段はほとんど変わらない。よりコストパフォーマンスに貪欲になった結果だ。

また、店側としては、ハンバーガーと一緒にジュースくらい注文することで利益を出そうという魂胆かもしれないが、オレはおかまいなしでハンバーガーだけを注文する。

.....

13時ごろ延光寺に着く。これで高知県は最後になる。

その次の札所（四十番札所観自在寺）は愛媛県。生まれ故郷。そこまで約30キロ。

観自在寺に向かっているとメールが来ていた。とりまんからだ。どれどれ？

「いい波は、キレイにブレイクして・・・うんぬん・・・」

とある。

わざわざ“いい波”の定義を教えるためにメールをくれたようだが、オレはもう高知県を抜けて山道を走っている。残念だ！

途中の一本松町というところで温泉を見つけた。

今日入っておかないと次いつ入れるかわからないので入ってみる。

400円したが、こぎれいで良いところだ。

ゆっくりしすぎて観自在寺（かんじざいじ）には17時ギリギリに着いた。

いちおうこれで目標は達成！

しかし、観自在寺のある御荘町（みしょうちょう）はある程度知っているが、条件を満たすような寝床はない。

どうしようか？と思いながら、コンビニでおでんを買って、近くのサンパールというプールの駐車場で食べる。

ここはホントによく来ていた。毎年、“夏”と言えば“休日”と言えば“プール”と言えばここだった。家から4、50キロのところ。今はもちろんシーズンオフで閉鎖しているが、その雰囲気になつかしい。車で来ていた場所に今こうして自転車でのいるのが、なんだか不思議だ。

おでんを食べているとネコが足元にすり寄って来たので、あつ揚げを小さくしてやる。

猫舌のくせしてバクバク食うのでドンドンやる。ちょっとイジワルしてカラシをたっぷりつけてやったが、ネコもバカではないことがよくわかった。

おでんを食い終わって、寝床探しにとりあえず北へ向かう。

勝手知った道というのは走りやすい。逆に言えば、これまでの知らない道はよほど神経を張っていたのだろう。

しかし、進めど進めど条件に見合う場所はない。

20キロほど進んで津島町に着く。もうここまで来れば、宇和島へは10キロほど、あと一息だ。もう宇和島まで行ってしまうことにする。

ふと「実家まで行ってしまおうかな？」と考える。2時間もあれば着くだろう。それもいいかなと思う。

しかも、実は親にはこのことを言っていないので、突然帰ったらびっくりするだろう。

へへへっ！いいなーそれ。突然帰るのはさすがにショック過ぎるから電話だけ入れておこうかな

。などいろいろな考えながら進む。

宇和島に入った。なつかしい。

母校の高校。

近くにある決してうまくはない弁当屋。

少しずつ変わってはいるが、なつかしい風景が続く。

でも、どこか変だ。何かうまく自分と噛み合わない。なぜだろう？わからない。

うまく言えないんだけど、何か変。

確かなになつかしい見覚えのある風景なのに……。わからない。

そもそも今ここを自転車で走っていることが不思議で不思議でしかたない。

結局、実家に帰るのはやめにする。なんとなく。そもそも実家には帰らないつもりだったし、何かこの変な感覚が気になる。

今、宇和島駅前のベンチに座っている。

寒いぜよ～！

いや“ぜよ”は高知だ。もう終わった。

“ひよーてたまらんなー！”

これだ！

ホントにひよーてたまらん！！

実家まであと10キロ、時間にして40分の場所で野宿をするのもおつだね！

## 17日目 四国14日目

---

宇和島駅付近→41龍光寺→42仏木寺→43明石寺→久万町  
走行距離115.4キロ  
トータル1774キロ

いよいよ（寺も金も時間も）残りもわずかになってきた。

宇和島駅近くのニッポンレンタカーの前で朝を迎える。

3方向に壁があり風が当たらない環境はとても暖かい。風がないだけでこうも違うものか、と感動すらおぼえる。

オレの“寝床探知能力”もかなりのレベルに達してきた。

昨日の日記はうたた寝しながら書いたので、自分でもいったい何が言いかったのかわからなかったりするのだが、要は“見なれた町並みがちょっと不思議な感覚であった”という話だ。

この辺りは、本当にもう十何年間も過ごし、恥ずかしながら、“青春”もあったし、“恋”もあったし、“喜怒哀楽”のすべてがあった。

なつかしい。

しかし、これまでの普通に帰省していた頃とは違う、何か“距離”を感じてしまった。

確かに距離がある。

離れてもう何年も経っているせいもあるだろう。しかし、それとも違う距離感がある。そんなことを考えながら出発する。

今日は札所以外にも行く場所がある。

ひとつ目は母方の祖父母の墓参り。祖父は数年前に亡くなったのだが、祖母は今年の夏に亡くなったばかり。オレは葬式に出席しなかったので、亡くなってから初めての“対面”である。

宇和島駅からすぐ近くの所にある墓地にはもう何度も来ている。

墓前で手を合わせる。ばあちゃんが本当にここにいるのか信じられないくらいにばあちゃんの記憶は新しい。

ばあちゃんは病気というか、老衰が原因だったのだけど、幸いと言えるかどうか、オレはその衰えた姿を見てないので、元気な頃の記憶しかない。

オレはばあちゃんの死を伝え聞いて知っただけなので、本当に死んだのかどうかも知らない。

「うそでしたあ〜」と言われたらウソにもなる。

葬式というのは、死を真向から受け入れるための修行のようなものかもしれない。それをしていないオレは、これからもずーっと受け入れられないままなのだろう。

四十一番札所龍光寺（りゅうこうじ）と四十二番札所仏木寺（ぶつもくじ）へ。

この2つの寺は、“札所”としてよりは、普通に寺としての馴染みがある。特に、実家から近いわけではないけど、仏木寺は何かあるごとに訪れていたから道もわかる。

次の四十三番札所明石寺（めいせきじ）へ行く前にすこし（いや、かなりかな）遠回りして、今度は父方の祖父母の墓参りに行く。

立間（たちま）というところにある大乘寺は、それこそ実家から歩いて来られるような場所にある。

じいちゃんはオレが生まれた時にはもういなかったのだから記憶はないが、ばあちゃんは去年亡くなった。

このばあちゃんは家も目の前で、たぶんオレが一番甘えることができた人だっただろうと思う。

このばあちゃんの時は死ぬ間際の変わり果てた姿も見たし、葬式にも出た。

死ぬ間際というのは、もう見ていられなかった。

病院のベッドで「そこに海賊が来て呼んどる～」と言ってわめくし、オレが見舞いに行き「ばあちゃん、帰って来たで」と言うと、「じゃあちょっと帰ろうかのう」と言って家に帰ろうと動かない体を起こそうとしてもがく。

誰の目にも長くないことはわかっていたし、オレも冷静過ぎるくらいそれは覚悟はできていた。

「ばあちゃん、もうすぐ正月やけんモチついて食べようか」と言った時のニーッとうれしそうな顔だけが忘れられない。

できることならもっと楽に死んでほしかった。

このばあちゃんの死は目の当たりにしたし、斎場で焼かれるのを見たので、死を受け入れられる。

さっきの母方のばあちゃんの方は、元気な頃の記憶しかなく、死という実感が湧かない。

死はきちんと受け入れるべきなのだろうけど、でも、あの死に際のつらそうな姿を見るくらいなら、どちらの態度が正しかったかわからなくなる。

国道56号線を北上して明石寺へ向かう。「めいせきじ」が正式名なのだがオレからすれば「あげしさん」だ。幼稚園か小学校の遠足でも来たことがある。

途中、法花津峠（ほけつとうげ）を通る。ここから眺める海は太平洋とはまた違った良さがある。

数年前、この町の役場の人と話をする機会があって、

「この町はこれからどうしていけばいいと思う？」

と聞かれて

「このままでいいんじゃないですか？変わって欲しくない」

と何も考えずに答えた。すると、

「ここにはここに暮らす人がいるのだからそうはいかない」

と言われて、あーそうか・・・と思う（それなら、ここを出て行ったオレなんかに聞くよりも、実際にここに住む人の意見をもっと聞けよ！とも思うが）。

その通りだな。

外に出た人間としては変わってほしくない、というのが素直なところだけど、ここに暮らす人々にとっては変わってくれなきゃ困るわけだ。

でもこれからどうあっても、この風景だけは変わらないことを願いたい。



.....

「あげしさん」から次の四十四番札所大宝寺（だいほうじ）まで90キロ。昨日走り過ぎて今日は足がパンパンなのだけど・・・と思いつつ、最後の試練かと踏ん張る。

30キロほどして大洲市に入る。ここは盆地。大洲盆地（おおずぼんち）。反対から読むと、「ちんぼズオオォー！！」。

そんなことを考えていると、パラッと頬に雨粒が・・・やはり最後の試練か？しばらく様子を見るが、わざわざカッパを着るまでもなさそう。そのまま進む。

内子（うちこ）町でいちじくが売ってあったのでそれを買って一休み。

いちじくはオレの好物だ。ムシャムシャむさぼりつく。

これほど“ムシャムシャむさぼりつく”という表現がぴったりくる食べ物はない。

目的地の久万（くま）町まではあと50キロ。時刻は16時になっていたのでお寺には行けないだろうけど進む。

このあたりから気温はグッと低くなる。特に、久万町はスキー場があるくらいだから、それはもう寒い。

早く近付きたいけど近付けば近づくほど寒くなる。

道も険しくなり、さらには雨が本降りになって来た。山道は17時過ぎると真っ暗になる。そんな中をカッパを着て、寒さに堪えながらとぼとぼ進む。

外灯などほとんどない。お店もない。

どれだけ進んでもたどり着く気配がない。いや、道は、間違っていない自信がある。ただただ登り道で自転車が進まないのだ。

夜道も慣れて来て、怖くはない。その点では昨日の道はヘタに知っているものだから、あそこは出る、ここは出る、と、あることないこと知ってて怖かった。今日は幸いテリトリー外なので平気だ・・・と思っていたのだが・・・突然

「ピンポンパンポ〜ン」

ビク〜〜〜っとなる。

町内放送らしい。びっくりしたな〜もう〜！やっぱり夜道は怖い！といってもまだ19時だ。“なにか”が出たりはしないだろう。

あまりの暗さと霧で、自転車のライトだけでは前が全く見えない。懐中電灯も照らす。

しば〜らくして、ふと道端にあった立て札が気になった。A4サイズくらいの板で手書きで書かれている。なんだろう？懐中電灯で照らす。

「本宗へは道連れ×・・・・・・・・（薄れて読めない）」

本宗とは地名か？道連れ？？よく読めない。×（バツ）って何が？

「・・・・・・・・。」

おいっ！

道連れっていったい誰が誰をじゃ～！

×（バツ）って何なんじゃ！

何がダメなんじゃ！

お～い！誰か～答えてくれ～！！

気がどうにかなりそうだ！試練？もうどうでもええわい、そんなこと！頼むから早く着いてくれ、久万町。汗が冷えて寒い。手がかじかんで動かん。早く着いてコインランドリーでシャツを乾かしたい。

もう死にそ……。

それから2時間。

ここ久万町はなにもありません……。

コインランドリー？……な～い。

コンビニ？……な～い。

駅？……な～い。

人？……いな～い。

最悪じゃ～～！

これ試練？

## 18日目 松山市へ

---

#今日は楽しい一日でした。  
#おかつちの懐かしい昔のままの顔が  
#見られて、うれしかったあ。  
#久々に幸せを感じてしまった。  
#忘れてた小学生の頃のいやーな話も  
#聞かせてもらったし、おかつちの中  
#学生の頃のかわいい彼女の話などな  
#ど、あの頃に戻った感じ。  
#弘法大師様に感謝、感謝。  
#ということで、愛媛代表、うづき  
#でした。  
#皆様にまた会えることを信じておわ  
#ります。

久万町内→44大宝寺→45岩屋寺→46浄瑠璃寺→47八坂寺→48西林寺→49浄土寺→50繁多寺→若藤兼仁邸

走行距離70.5キロ

トータル1844キロ

今日は五十番札所繁多寺まで終わった。

これは重大な意味がある。どういうことかと言うと、

「明日は間違いなく五十一番札所からである！」

・・・いや、それはそうではあるんだけど、そうではなくて・・・そう、オレは五十四番札所からスタートした。ということは、だ、

「明日終了する（かもしれない）」

いよいよだ。終わる。さらば野宿。さらば四国。

最終日前日（となるはず）の今日は、“一昨日の長距離”、“昨日の雨と寒さ”にやられた足に泣かされた。進まねえ。全然。距離も延びない。昨日の試練を乗り切ったのに・・・試練によって生まれる次の試練。

今朝5時ごろ目覚めると雨はまだ降っている。携帯で天気予報を見ると、0～6時40%、6～12時10%、とある。それを信じて、昨日やり残した日記を書き上げていると、6時ごろ雨は止んだ。すごい！天気予報！当たるもんなんだ！

四十四番札所大宝寺へはそこから1キロくらい。ささっと終わらせる。

そこから10キロちょい先の四十五番札所岩屋寺へ。これまでの道程を考えればまったくどうってことないアップダウンなのに、時間がかかる。ふくらはぎが筋肉痛。もう1500キロ以上も走っているのに、ここに来て筋肉痛になるとは思わなかった。ピチピチのヤングマンも肩なしだ。

今来た道を大宝寺に向かって引き返す形で40キロ。松山市に入る。

残すところあと8ヶ所。すべてこの松山にある。“おわる”という実感が全然湧いて来ない。頑張れば今日中に終わりそうだが、今夜は小、中学校の友人と会う約束があるので、3ヶ所を残して待ち合わせの場所へ行く。

よく考えてみたらこの18日間、“知っている人”に会っていない。見事なまでに。寺で出会う人や道行く人と話すことはあるが、親近感こそあるものの、当然ながら知合いではない。こんなことは初めてだ。

久しぶりに会う“うづき”は、昔、「こうなるだろうな・・・」と思っていた通りのおやじ好きのOLになっていて笑える。うづきはこの日記を見ているのでヘタなことは書けないのが残念だが、まあ・・・老けた、いや、“大人になった”な・・・。

それから近くに住む“カネくん”と合流。カネくんとともに会うのも中学出て以来かもしれない。3人で焼肉食べ放題に行く。肉だ肉！これまた久しぶりの肉！しかも食べ放題！ここぞ！とばかり食う。ああ～肉・・・。

ひさしぶりの再会で、しかも、オレを含めたこの3人というのは、いまいち共通点がなさそうなのだが、あとからあとから話題が出て来る。不思議だ。

焼肉をたらふく食ったあと、カネくんの家に泊めてもらうことにして向かう。

そこでも次から次から話題が出て来る。中心は、あいつはどうなった、こいつはどこにいる、という話。オレは滅多に帰省しないので、この手の話にうとく、とても楽しい。初恋の人が（風の便りに聞いてはいたけど）結婚したことを確認してちょっとシュンとなったり、意外なやつが意外な仕事をしていたり、オレは「ふ～ん」「へえ～」の連続だった。

それはそうと、こんな時でもオレは自らに課した課題である日記を書かなければならないのでサダコ（PalmVx）をとりだして書こうとするのだが、話に夢中になって全然進まない。

うづきが放り出されたサダコ（PalmVx）に慣れない手付きで何やら書き始めた。それが↑上のやつだ。せっかくだから、そのまま載せておく。

福岡の大澤から電話があった。飲み会をしているらしく、次々にいろんなやつと「日記みてますよ～」というような話をする。

愛媛の友達と福岡の友達に挟まれた形で、オレは幸せだ！

簡単だが今日はここまでだ。書きたい事はまだまだあるけど、今日は書けそうにない。それよりも話をしたい。まあ、これもありだ！なぜなら、これは“日記”だから・・・。日記のための生活ではなく、生活あつての日記だ！←われながら、うまい言い訳だな。

明日は残りの三ヶ所を廻る前に道後温泉に行こうと思う。結構有名な温泉なのだが、地元の間人と言うのは意外とこういう場合、行ったことがなかったりする。話のネタのためにも一度経験しておこう。そして、きれいになって最後を締めくくる。

締めくくると言っても、オレはさらにそこから福岡に向かって帰らないといけない・・・。ああ～・・・。

食べて飲んでしゃべっただけなのに、めちゃめちゃ楽しかった。

ありがとう。カネくん、うづき。

またね！



うづきとカネクン



カネクンとオレ。

黒い。



うづきとオレ。

やっぱり黒い。

## 19日目 四国16日目結願

---

若藤兼仁邸 → 道後温泉 → 51石手寺 → 52大山寺 → 53円明寺 → 54延命寺 → 今治駅付近

走行距離68.8キロ

トータル1913キロ

残すところあと3ヶ所。

その前に朝7時すぎ、予定通り道後温泉に行った。

松山の中心地からすぐのところにある風情のある温泉。

入浴料300円は安い！朝は6時からやっていて、ここの朝風呂というのは有名らしい。

温泉のお湯自体はそれほど特徴もなく普通の水道水と何ら変わりはないので、温泉そのものよりも、風情、雰囲気を楽しむ温泉だな、と思う。

こんな温泉が町なかにあるというのはうれしい。

道後温泉から1キロ程のところの五十一番札所石手寺（いしてじ）がある。

参道には出店が建ち並び、平日の朝だというのに人も多く、縁日の雰囲気さえある。

みかんが売ってあったのでひと袋買う。

小学生の団体が大きな画板を抱えてやって来た。みかんを食べているオレを見て「いいな～みかん」とか言っているが絶対あげないぞ！おまえらの家の蛇口からはポンジュースが出るではないか！それで満足だろ！それに、一人にあげたらみんなにあげないといけなくなる。

お遍路さんに物を乞うでない！バカ者め！

今日は気分がいい。

ようやく終わるのだからそれはそうなんだけど、それだけではないようだ。やはり昨日、昔の友達にあったことが、思った以上に気持ちを楽にさせてくれたようだ。実家のあたりを通過した時に感じた違和感は、昨日のおかげで少しなくなった。やはり、旅というものは人に会わないといけないのかもしれない。

残り2ヶ所。カウントダウンが始まる。

五十二番札所大山寺（たいさんじ）までの10キロ強、さまざまなことが頭をよぎる。

五十三番札所という中途ハンパなところで終わると、八十八番札所の山奥の静かな場所で最後を迎えるのではやはり心構えが違って来るのだろうか、意外とあっさりとなりそう感じがしている。

昨日のことも大きく影響しているのかもしれない。感慨深さよりも爽快感の方が大きい。まだ“いちおう”若いんだし、そういう終わり方もいいかもしれない。

大山寺に着く。

勝手なもので、気分がいいとお経もそれっぽく唱えることができる。

しかし、この般若心経、ついに覚えられないまま終わりそうだ。

.....

最後の札所、五十三番円明寺（えんみょうじ）。

いよいよ、いよいよだ。

3キロほどで着くはず。最後を惜しむように歩み（自転車だけど・・・）はのろい。

信号のある交差点を曲がり、寺門が見えて来た瞬間、背筋が凍った。

今回、ひとつだけ気になっていたことがある。

昔、おやじに連れられて車で廻った時、どこかの寺で、オレに青、妹に赤の輪袈裟（わけさ/首からかける遍路用具のひとつ。略式の袈裟）をいただいたことがあった。

不精なおやじだから白装束など着るはずもないし、遍路姿らしいものは何もしていなくて、それをお寺の人が気にして「せめて・・・」とオレたちに輪袈裟をかけてくださった。

少しお遍路さんっぽくなったオレは子どもながらにありがたくて、うれしくて、いつか何かのおりに来ることがあったら、絶対にお礼参りをしなくちゃいけない！と思っていた。

今回の道中で何度かそれを思い出して記憶をたどってみたのだけれど、それらしいお寺に出会えない。

「もしかしたら、どこかで気づかないまま廻って来てしまったかなあー？」と思いながらも、「いや、五十二番札所か五十三番札所あたりだったかもしれない。もしも、最後の寺、五十三番がそうだったらこれは感動的だ・・・」などと考えていた。

こういうこともあるのだな・・・と思うしかない。

寺門の前に立つ。

「間違いない。ここだ・・・」

胸が熱くなる。

あの時の光景を思い出す。ゆっくりゆっくりと確かめるように本堂に歩み寄り、いつもより丁寧に手を合わせる。

「あの時は、本当にありがとうございました」

そして、これまでの八十七ヶ所と同じようにして大師堂に進む。この巡り合わせに感謝の気持ちを込め、最後の般若心経を唱える。

オレはオレの意志でここまでやって来た。そのことは胸を張れるし自信を持って言える。しかし、もしかしたらそれさえも巡り合わせだったのかもしれない。

般若心経を終えると・・・どうやっていいのか・・・う～ん、わからない。なんだろう？変な気分。

呆然として自転車を止めた場所に向かっていると、70くらいのおじいさんに呼び止められた。おそらく近所の人なんだろう。遍路姿ではない。



「自転車で来られたのかね？」

「あっ、はい。」

「どちらから？」

「福岡です」

「ほう～それは～！まあこっち来て座んなさい」

「あっ、はい」

いつもなら、境内にこういうおじいさんがいると避けるようにしてやり過ぎす。おじいさんの話は長くて大変なのだ！次の札所へとなかなか進めなくなる。

でも今日は別。もう次はないから焦ることもない。ゆっくりとおじいさんの話を聞いてみようという気持ちになる。

「実はここで八十八ヶ所最後なんですよ」

と言うと、

「それはそれは・・・」

と話が始まる。おじいさんはシベリア帰りの思いっきり戦前の人だ。お四国廻りも1度2度経験があるらしい。お大師さんにまつわる話やご利益、功德の話などさまざま。1時間ほど話に熱中する。

不思議だ。

このおじいさんの話は全てに関して、いちいちうなづくことができる。

いや、でも、そのことが不思議なのではない。

不思議なのは、おじいさんの話が全て、“オレがこの十数日間ずっと考え続けていた事そのもの”だったからだ。

おじいさんの一言一言がオレの中で響く。

この旅の全ては、このおじいさんに代弁してもらうことで、オレの中で確固なものになった気がする。そして、やはり無駄ではなかったことに感謝する。

最後におじいさんからあるものをいただいた（別にここに書けないものではないんだけど、書く説明が必要になるので濁してしまおう）。

それというのは、はっきり言って“要らないよ！そんなもの”とオレは思っていたものだったのだけど、このおじいさんを介していただけるならこんなにうれしいことはない。「ジュースでも」といただいた100円玉2枚とともに、ありがたくいただいて、オレのお守り兼宝物としたい。

「気をつけて・・・」

と自転車で去って行くおじいさんを見送りながら、これまで何度も涙が出そうな感動はあってもこらえてきたのに、このときばかりはもうどうしようもなく、止めることができなかった。

オレは因縁とか巡り合わせとか、第六感的なことがらは信じてないわけではないものの、説明がつかないことに100%の信頼はおけないでいた。しかし、今こうして自分の体全体で体験して実感してしまった。

自分で体験してしまったからには、もう否定はできない。

もっと真剣にそういう力を信じてみようと思う。

やはり行こう！一番初めに行ったお寺へのお礼参り。どっちにしても帰り道だ。

.....

---

40キロ弱。今治市。半月ぶりの延命寺にはやはりあの“納経帳は要る、要らない”とやり合ったおばちゃんがいた。

「1周してきました」

と報告。

「おうおう！どっかで見た顔じゃーおもたわい。ほーかほーか、早かったなー」

前に来たのが4日で今日が19日だから、16日間かかって来たわけだ。それが早いのかどうかはわからないが、まあ無事で良かった。

ひとつおり本堂、大師堂にもご報告。

これにて結願。願はかけてないけど・・・。

帰りにおばちゃんからお茶をいただき失礼する。

今日はもうひとつ行かないといけないところがある。

シゲハンこと重松飯店だ。

もちろん焼飯（やきめし）大盛りとまずいおでん。

やっぱり“大盛り”だし、やっぱりまずかったけど、シゲハンで始まり、シゲハンで終わることができて感無量。

今日は四国1日目に寝た、トヨタレンタカーのところにしようと思ったのだが、今にしてみればよくこんな所で・・・と思えるような場所なので、さらに条件がいいニッポンレンタカーの前にする。

明日から長い長い帰路を走る。いちおう日記はまだ続く。

## 20日目 帰路

---

今治駅付近→しまなみ海道→三原市

走行距離90.1キロ

トータル2004キロ

朝起きてみると、雨。完ペキな、雨。

雨のしまなみ海道は残念だけど、これまでほとんど降ってなかったから仕方がないか、などと今治駅の前で考えていると、住所不定系のおっちゃんに声をかけられた。

「どこから来た？」

「福岡です」

「ほ～え～！」

まあここまではいつものことである。

「それで、何？四国一周か？これからどっか行くのか？」

「いや、お四国参りを終わって、今からしまなみ海道を渡って帰ります。」

「お四国を！ほ～え～！えらいことだ！オ、オレもな、昨日しまなみ海道渡って来たんじゃ。これから明石海峡の方まで行って大阪に渡ろうと思っと思ったんじゃが、もう酒ば一っかり飲むもんで、もう帰る。」

「おっちゃんどこから来たんですか？」

「……………」

（あっ、聞いちゃイカンかったかな？）

どうやら自転車で転々としている感じだ。昨日買ったみかんが2つ残っていたので

「おっちゃん、みかん食べる？」

とふたりで食べ別れた。

しまなみ海道まで10キロほど。カッパはズボンだけ履いて走り始めると、5分もしないうちに後輪がカチャカチャと音をたて始めた。

「何だ？」

見ると、安全ピンがグッサリと刺さっている。20日目にして初めてのパンク。

これまで、パンクではないけど、一度後輪を交換しただけで済んでいたのだからこれも仕方がないか、と諦めていると、さっきのおっちゃんが来た。

「おうっ、どした？」

「安全ピン踏んでパンクしたので、治そう思います。」

「ほ～え～、道具はあるのか？」

「いちおう持ってます」

近くの屋根のある駐車場に行く。おっちゃんもついて来る。

「あんた、あれ、ポンプはあるのか？」

「緊急用にスプレー式のを持ってます。」

「ほ～え～！こんなのあるのか～？これはええな～。」

このおっちゃん、昔自転車屋だったとかそういう話にならないかな？と甘い期待をしていたがそれはなさそうだ。

おっちゃんはオレが修理をしている間も酒の話ばかりしている。

「ほ～え～、あんた早いな～。もう終わりか？あんた、酒飲むか？」

旅は道連れ。近くで酒を買って飲もうということになった。

コンビニでおっちゃんはワンカップ、オレは焼酎を買う。修理に最後までつき合ってくれたお礼に、とお金はオレが出し、コンビニの前に座り込む。

「いや～、ありがと、ありがと。じゃあお返しにあんたにこれをやろう。これ2万円はするで～。シンナーできれいに拭いとるから、そのヒゲなんとかしな。」

と電気カミソリをもらう。

どう見ても2万円もするとは思えないのだが、おっちゃんがそう言うのだからそう思うことにする。

これはおっちゃんのプライドなのだ。

帰り着くまで剃るつもりはないし、168円のワンカップのお返しとしては良すぎるものでちょっと申し訳ないのだけど、おっちゃんの気持ちだから受け取る。

酒を飲んで饒舌になったおっちゃんは、とにかくしゃべるしゃべる。それも、歯がないうえにろれつが回っていない。

オレはオレで“飲んだら寝る病”との戦いで耳はザル以下である。

オレはときどき聞こえる単語とおっちゃんの表情で何とか話を推測するが、どうにも收拾のつかない時間が流れる。やばいなあと思いながら、話にキリをつけるきっかけがない。

3時間。いや4時間くらいかもしれない。時間は12時になっていた。

話自体は（オレの推測が正しければ）おもしろいのだが、あまりのんびりしているわけにもいかない。

おっちゃんが同じことを繰り返し言うようになってきたので

「ごめん、おっちゃん。オレもう行くわ・・・おっちゃんはもう明石には行かんの？」

「行くよ」

（あれっ、さっきと言っとることが違うじゃん！）

もう、わけがわからない。

雨も上がっていたのでおっちゃんに別れを告げ、昼間から酒臭い旅人は焦り気味にしまなみ海道へと向かう。

実はおっちゃんとの話の途中で、今度はおっちゃんに焼酎をごちそうになっていたのも2本飲んだことになる。致死量。オレはもう“イイキブン”だ。幸い、日焼けのおかげで赤さはバレなかいと思うが、今思えばよく自転車などこげたなあとと思う。

その証拠にオレはしまなみ海道の橋のふもとの公園で爆睡した。

.....

額に冷たいものを感じて目が覚める。

また雨だ・・・

カップのズボンが股裂きの刑にあっている。いつなったんだろう？時計を見ると寝てからまだ1時間しか経ってない。

（良かった！まだ行ける！）

股の裂けたカップを脱いで、ひさびさのショートパンツになる。足を冷やすといけないので暑いときでもガマンしてチノパンをはいていたのだが、もう大丈夫みたいだ。足は痛くない。

雨のしまなみ海道は見所がない。黙々と2週間前に通ったのと同じ道を引き返す。

酒と爆睡のおかげか、昨日までの四国での出来事が夢のように思える。次はいつ来るのだろうか？

ふと、おかしな考えを思いつく。

「四国を聖地化しよう！」

この四国を、滅多なことでは足を踏み入れてはいけないオレの聖地として半ば偶像化してしまおう。

そう考えれば、四国の人々は聖者か何かで、このしまなみ海道は四国曼荼羅への長い長い“表参道”だ。

う～ん。名案！

そうすることに決めた。

“表参道”を抜け、尾道に着いた頃にはもう暗くなっていた。

これからまた福岡までの道を引き返さなければいけない。

んが～～っ！つ～ま～ら～ん～～！！

四国を一周したオレの体は、スリルなしではどうもやっていけないようだ。

よし！決めた！また決めた！やるぞ！

やります！

「福岡まで寝ず食わずでたどりつけるかどうか（無理せずやってみる）断食ゲーム」

だ。長い？

断食とは言ってもプチ断食だ。“プチ”を付けると出来そうな気がしてきた。

ルール

1. 福岡に着くまで、寝ない。食わない。但し、水（お茶）とタバコは可。
2. 50分走ったら10分の休憩を入れる。
3. 無理をしない。
4. あきらめない。
5. 辛くなったらウロ覚えの般若心経でもあげてみる。
6. 日記はもう書かない。その代わりに「生きてるよ」くらいの報告はたまには載せる。到着した

らゆっくり書く。

7. 極力、往路とは違う道を選んで気を紛らす。

8. 終点地は福岡市長浜の「元祖長浜屋（ガンナガ）」（←言わずと知れた全国でも1、2を争う清潔感溢れるラーメン屋）

9. 河の向こうで手招きしているのを見たら丁重にお断りする。

10. ホント・・・無理はしない。

2と3は明らかに共存しえないが、基本は10だ。

というわけで、もうひと冒険しようと思う。

今、“最後の晚餐”を楽しむべく、尾道の隣、三原市のジョイフルでこの店で一番大きなハンバーグとケーキを2個食った。これで最後。福岡まで何も食わない。

早速今から出発、とっていたけど、今日はもう寝て明日から始める。

無理はしない・・・。

往路のデータから逆算しておよそ400キロ弱。何だかんだ言っても、1日寝ずに走れば200キロは進む計算でマル2日。2日間何も食わないでおいて食べるガンナガは最高だろう！

いや、ホント、無理はしない。マジで。

スリルを味わいたいだけだ。

それでは。

## 21、22日目 帰路そして帰宅

---

帰路、広島県三原市から福岡までの走行距離376.8キロ

総走行距離2380キロ

たどり着いた！！この日が来るとは全然想像してなかった。

21日に広島県三原市を出て376.8キロ。

長い！！

往路はまだ四国入りする目標もあったし、疲れもまだまだなかったもので、この長い距離も平気だったのだが、もう“帰るだけ”となってしまった今、魂を抜かれた生ける屍である。

が・・・、生ける屍のくせして腹は減る・・・。

腹減った腹減った・・・。

峠にあるグリコの自販機でポッキーとかアーモンドチョコレートが売っている。その前でしばし立ち止まり、うまい言い訳を探す。しかし思い付かない。

我慢！！

プチ断食のせいかな？足が動かない。寒い。

規制緩和することにする。

『飲み物はスポーツドリンク系のはあり！』

ちょっと命綱が必要な気がしてきた。

山口県に入るくらいのところで夜風が寒いので軍手でも買うことにしてコンビニに入る。

ある！ある！食べ物！！ウォオオオオー！！

我慢だ！我慢だ！

しかーし！

食っちゃった☆ポ・テ・チ！エヘッ！！

プチ断食大失敗！！

『人間といふもの、食わずに300キロ以上も走ることなどムリである。』

悟りだ！

この旅で初めて悟ったのだ！！

悟った！悟った！

こうなったら規制緩和の嵐である。

ちょっと休憩のつもりが、ふと気がつくと時計が1時間進んでいる（こういう場合2時間は進んでいると思った方がいい）。

記憶が飛んだ・・・いや、隠しだてはしない・・・寝た！

プチ断食の“プチ”は、“ちょっとは寝るぜ！ちょっとは食うぜ！”の“プチ”なのだ！と思うことにしよう。



そんな感じで帰路はひたすら走る。

結局ポテチも2袋食っちゃった（こういう場合、3袋は食っていると思った方がいい。しかも、そのうち1袋はBIGサイズであったに違いない、というくらいの考察が必要である！）。

22日昼頃。ひさしぶりの九州。

宗像市を通り過ぎるあたりでホッと一息。

“木登りは着地が一番肝心！”

“九十九里終え半ばと思え！”

友人知人の言葉を思い出す。

プチ断食が失敗に終わった今、このまま無事で帰還することだけが目標である。

軽く雨が降り始める。幸いカッパを使う程ではない。

思えばこの旅でカッパを使ったのは4回だけ。この強運に感謝しないといけない。予定よりも早く帰りつけたのも天気が良かったからに他ならない。

3号線を西に向かう。古賀を過ぎ、香椎を過ぎる。

不思議な感覚！

“帰ってきた”という感覚がまるでない。

箱崎を過ぎて3号線はずれ、博多ふ頭方面に向かう。この道を真直ぐに行けばガンナガがある。

一昨日までは四国にいたのに・・・。

18時前、ガンナガに着く。

.....

この店にこれだけ感慨深さを感じた人間はオレをおいて他にはあるまい！！

ガンナガに着いたところでその報告を日記に載せようと思っていたが、そんな余裕はない。ポテチを食ったとは言え、腹の虫はもう鳴く元気すら失っている。

一杯食う。さらに替え玉を食う。う～ん。まだまだいける。もう一杯替え玉。

隣の人が“プスッ”と吹き出している。気持ちは分かるが、オレは腹が減っているのだよ！！この小汚い格好で察してくれ！！

三杯食ったがまだまだいける勢いだ。隣の人はその間まだ一杯目が終わっていない。四杯目はやめておいた。

店を出てコンビニでデザート系のを3つほど買い、バイト先に遊びに行く。

高村がいた。

「黒っっ！！！」

そう黒いのだ！おまけに光っている。テカテカ。

デザートを食べながら、ふと写真を撮っておこうと考えた。これまでオレとサダコ（ママチャリ）の2ショットは1枚もない。自転車にまたがった姿を高村に撮ってもらう。実はこの旅でこの27枚撮りのフィルム、これ1本しか使っていない。写真を撮っている余裕はほとんどなかったし、あまり必要ないな、とも思っていたから。

そしてそのフィルムがちょうど終わった。

毎日のように通っている道で家に帰る。もうホントにふしぎな感覚。これまでの道の続きに、この見慣れた道がある。

「あっ、ココいいね～！」

悲しいかな・・・思わず寝床を探してしまった。今日はもういいのだよ・・・。

慣れた道を走っていてようやく気付く。

「相当、疲れているな・・・」

思うように進んでいない。

そして、ようやく、ようやく、たどり着いた。我が家。

「.....汚ねえー」

当然ながら出ていった時そのままである。

何でこんなにモノが多いんじゃあ！デイバッグとトートバッグの荷物で3週間生きてこれた人間に、何でこれだけのモノが必要なんじゃ！と思う。

そして、気のせいか部屋が大きくなった気がする。でも、天井が低くなった気もする。

しばらくはこんな感覚が残るのだろうか？

ホントに夢の中をふわぁ～っとしている感じ。

このまま眠って、朝起きて日付を見たら10月1日だった・・・というようなオチはないだろうな、と本気で怖くなるくらい。

もちろんそれはなかったけど、一晩寝て日記を読みながら、落ち着いて考えてみた。

.....

いったいオレは何が変わったのだろうか？---変わったという感覚はないではないけど、いったいそれが何なのかはわからない。

『なぜお四国参りなのか？』

とよく聞かれた。その答えはあるっちゃーあるし、ないっちゃーない、という程度のものだけど、挙げようとするときりがなくうまく言葉にはならない。

今にして思えば、

「マイルストーンを打ち立てたかった」

というその1点だったかもしれない。

もう20世紀も残り少ない。

新世紀を踏み出すために1つ足跡とか道標という形で自分の中に何か刻んでおきたかったのだろう。

だから、どうにかして20世紀中にやりたかった。しかも誕生日にかぶらせた。

お四国参りで鍛えた体力と精神力は3ヶ月は持続できるらしいから、たぶんこれで問題なく21世紀を迎えられると思う。その点、大成功だった。

でも、お四国参りをすると「何か悟るんじゃないか？」と思われるし、オレも少しは期待はしてみたけど、そんなことはない。“悟り”というものが何なのかはわからない。

そして、何か新しい発見というのもほとんどない。

“新しい発見”というよりは、今までグチャグチャと考えあぐねていたこと（点）が繋がっていった（線）感じ。

誰もがそうであるように、オレにも日頃から考えていたことや悩んでいたことがある。

何か考えずにはいられない。「我思う。ゆえに我あり。」というからそれはいいのだろうけど、最近、頭で考えるだけで体で感じることをしていなかった。考えることが肥大して複雑化するばかりで全然消化されていないのを自分でも感じていた。

ひたすら自転車をこいでいる時というのは、とにかく思考の時間だった。

これは歩きでも車でも感じられなかったことだろうと思う。歩きでは長すぎるし、車では短すぎる。

とにかく自転車をこいでいる時というのは、オレにはそういうことにちょうどいい時間だった。

そうして四国に入って数日した時に不思議な感覚があった。

真っ直ぐな道を進んでいた時、自分の後方10メートルくらいの範囲に、オレが今まで考えていた雑念やら何やらがグワッと漂っていて、それがオレの背中から入って、胸から一直線に出ていく感覚。ホント感覚。実際そういう何かモノとか物質を見たとか妄想ではなくて、自分でそういう感覚を半ば勝手に作り上げたような、そういう感覚。う～ん、難しい……。やっぱり妄想かも……。

たぶんそういうことなんだろう。（←何が？）

その感覚があった時に思ったのが

「お四国参りは何か他力本願的な“新発見”や“悟り”のためのものじゃない。これまでの思考を集約し、次の思考を始めるきっかけを作る作業なのだ。」

ということ。

これはあくまでも“オレの考え”であって、雑念とか煩惱というものは仏教では忌み嫌われるものだから「このような考え方はおかしい」と言われそうだけど、お大師さん（空海）が修めたと言われる密教というのは、その起源や本質からして実は仏教とは似て異なるものだと思う。密教の起源はシャーマニズム、呪術的なものらしい。

真言宗は言ってみれば「大日如来ありき」であり、その点、キリスト教の「神ありき」に似ている。でも、キリスト教は“神が世界を支配している”という考え（違うかも・・・）なのに対して、真言宗のそれは支配など関係なく、ただ“存在する”だけ。それだけ。でもそれがわかりづらい。

お四国参りをしていると、

「お大師さんが修行のために歩いていると梨の木があった。その梨ををいただくこうとすると、その木の持ち主が“その梨は食べられない梨です”と偽って断り、数日後本当に梨が石になって食べられなくなってしまった。」

という“不食梨（くわずのなし）”伝説や、梨が鯖に変わったり、そういう類のお大師伝説にしょっちゅう出会う。でもこれは、儒教的な思想が強いし、だいいち空海はそういうこととは無関係な人物だったと思う（もちろんこれは伝説だし・・・）。

#オレは“この人”を歴史上の偉大な人物と捉えるとき“空海”と呼び、伝説色が強いとき“お大師さん”と呼ぶことにしている。

.....

空海は（史実を信じるなら）芸術、文術に秀でた人だったし、政治にも顔の利く人だった。となれば、煩惱もさぞあったことだろうと想像できる。いらぬお節介だが、司馬遼太郎も言っていたように、おそらく空海は童貞じゃあないだろう。

「煩惱ありき」

実はこれが空海の基本なのではないか、と思う。

“煩惱はある”という事実。

それを受け入れることから始めないと空海を理解できない。

ただ、“煩惱はある”“雑念はある”“欲はある”という次元を越えたところに“大日如来”が存在していて、空海はそこに行き着いたのだろう。だから“空海なんて煩惱の塊だ！”と罵ったところで、空海自身は痛くもかゆくもないに違いない。

そして、その空海の懐の深さやスケールの大きさが逆に様々な伝説を生み、四国八十八カ所という一大イベントを生んだのではないかと思う。

だから、四国八十八カ所というイベントは人それぞれの解釈があっただろうと思う。

団体バスツアーで参ろうと、自転車で参ろうと、納経をしようとしまいと、供養をしよう、願を掛けよう、そんなちっぽけなことは関係なく寺はそこに“存在する”から“お参りする”。

道中、ある人から

「納経というのは、冥土に近い人間のやることだから、あんたみたいに若いのは必要ないよ」と言われた。それは、もっともな解釈だと思う。

うるさいうるさい団体ツアーのおばちゃん連中も、オレは毛嫌いしていたけど、あれはあれでいいのではないかと今では思える（終わってしまえばね）。

あのおばちゃん達も、その中で浮いてしまっていたおばあちゃんも、歩いて廻っていた人も、車で廻っていた人も、その道中に描く思いは様々でも、八十八カ所参り終えたときにオレがそうだったように、それぞれの感慨があればいいのだと思う。

「お四国参りはこれまでの思考を集約し、次の思考を始めるきっかけを作る作業なのだ。」

とオレは考えた。巡り合わせを信じるようになった。

でも、それが正解かどうかは“お大師さん”には関係のない話に違いない。

「好きにきなさい」

と言われるのがオチだろう。

オレはマイルストーンを打ち立てた。

でも、それはオレの中に打ち立てただけであって、他の人から見てどうこうという問題ではない。

何も悟ってないし、何も変わってないかもしれない。言えることは、オレにそういうバックボーン、バックグラウンド、背景が加わっただけで、オレの表面は何も変わらない。煩惱だらけ。それを気持ちよく受け入れたい。

ちょっと話を変えて、この3週間あまりでの体の変化について考えてみる。

“筋力”“体力”これが上がったのは確実だろう。言うまでもない。

そのほかに目に付く体の変化は、耳が良くなったこと。

これは自転車に乗ってウォークマンで音楽を聴いていて気付いた。音の細部、くわしく言えば、微妙に鳴っているハイハット、シェイカー系の音とか、薄く鳴っている白玉系の音、ボーカルの息づかいや楽器の奥行きがハッキリと聴けるようになった。“耳が良くなった”と言うより、“耳が元のあるべき状態に戻った”と言った方がいいのかもしれない。

おそらく、聴力だけでなく、視覚、嗅覚など全ての感覚も“あるべき状態に戻った”のだろうと思う。

それから、手相が変わった。

これはちょっと笑い話でもあるんだけど、自転車で坂道を上る時などはハンドルを“ギュッ”と強く握りしめないと力が出ない。そういうのを何日も繰り返していたわけだから、手の皮に今までなかったシワもできたりする。クッキリわかるシワが左右2つずつくらい。薄かったシワが濃くなったのがいくつか。

こういう場合、手相学的にはどうなのだろう！？アリなのだろうか？

もちろん、手相を信じる信じないに関わらず、いい方向に変わっていれば気分もいいけど、そうじゃなければちょっと恐い。この辺にくわしい友人に聞いてみようと思う。

あと、野宿に慣れちった・・・。

1週間くらいしたら「野宿してえ〜！」などと言い始めないかちょっと心配・・・。

.....

ともかく、何が変わったのか、目に見てわかる体の変化以外にはちょっと見つけづらい。  
“オレは変わった！”とか“オレはわかった！”とかいうのは精神分裂症の初期症状らしいから、そういう劇的な変化がないことにちょっと安心していたりする。

正直、この旅の直前には心配もあった。

「もしも、何かにとり憑かれたようにオレという人間が変わってしまったらどうしよう!？」  
という心配。

でも、これほど欲深く、煩悩だらけの人間にその心配はないようだ。

四国に入ってすぐの頃、キリスト教のお誘いを受けた時、正直怖かった。

あれは“お誘い”というナマやさしいものではない。聖書やら何やらの言葉を畳みかけるように聞かせ、相手に考える余地を与えない。

こういうやり方は“布教”じゃない。“洗脳”そのものだろう。新興宗教の手法と何も変わらない。

その時、最も怖かったのが、別れ際に「ハレルヤ」を連呼させられた事。

ひたすらに「ハレルヤ」の4文字を連呼する。「ハレルヤハレルヤハレルヤハレルヤ・・・」。舌がもつれてくる。その切支丹は「そう、そう、もつれたままでそのまま・・・」と言いながら、オレの耳元でハレルヤに合わせて何やら呪文を唱えている。

オレも興味半分でやってしまって、それも悪いのだが、バカではないし、これが洗脳に繋がることくらいはわかっていた。だから怖かった。

怖くて「レロレロレロレロ・・・」とわざと投げやりになっていたのを、あの人は気付いたのだろうか？

それくらいにオレは“自分の変化”に対して敏感なのだと思し、それは煩悩の成せるワザだと思ふ。

「煩悩ありき」

これから始めるのが人間なんだろう。煩悩を隠そうとすると失敗する。

異性が好きだし、オレの場合は女性が好きだし、たまには同性が好きな人もいるだろうし、いい恋がしたいし、食欲はあるし、性欲もあるし、やりたいし、金持ちになりたいし、弄びたいし、幸せになりたいし、人に認められたいし、“あんたが大将”と言われたいし・・・。そういった自分の煩悩を全て受け入れた上で、自分の哲学を持てばいいのだと思う。

空海の「全てを受けとめ、全てを受け入れる。」という教義はそういった意味だろう（これはオレが考えたことであって、しかし、合っているかどうかに関わらず“お大師さん”は認めてくれるだろう）。そしてそれが、オレが惚れた空海のスケールの大きさだと思う。

以上、長々と日記らしからぬ日記になってしまいました。

でも、今このように思っていることをここに書き殴らないといけない気がして、見る人にとっては少々うざったいかもしれませんが、思うがままに書き殴ってみました。

これらの日記は、もちろんオレ個人の日記ですが、同時に、“八十八カ所廻った証”である納経帳の



代わりでもあるし、毎日毎日眠いのをこらえながら最低でも2時間はかかる（書くのが遅いのです・・・）この作業を続けてきたのも“写経”をするような気持ちだったからです。

こうやってWeb公開してみたものの、こんな“オレ流”な遍路に、みなさんを無理矢理付き合わせてしまっているように思えて心苦しく、小心者のオレは「もしも、うっとうしく思ったら見ないでね・・・」「怒ったりしないから異論があったら言ってね・・・」と祈るように願うことも何度もありましたが、たくさんのメールに助けられました。

おかげで心身共に最高の状態で21世紀を迎えられそうです。

本当にありがとうございました。

## 10年が経ちました

---

あの頃、iPhoneは無かった(似たようなものはPalmだった)  
あの頃、パケホーダイは無かった  
あの頃、GPSは無かった(地図と案内板だけが頼りだった)  
あの頃、ブログは無かった(携帯でお手軽に更新なんてできなかった)  
あの頃、ネットブックは無かった(あったら遍路日記は最高に楽だったろうに)  
あの頃、お金は無かった  
あの頃、嫁とは出会ってなかった

とにかく時間だけはあったらしい。  
目的もなく、「何かありそう」な予感だけで走り続けた。

しばらくは夢にも出てきた。  
ひと回りでは満足いかなかったらしく、2周目、3周目を走っている夢。  
逆打ちも始めてしまう夢。

あれからちょうど10年。  
福岡を離れて東京に来た。  
無いだろうと思っていた「定職」というものに就いた。  
それも自分の力を世の中の為に生かせる仕事だった。  
嫁と出会った。もうすぐ第一子が産まれる。

いろんなラッキーがあって、いろんなアンラッキーがあった。  
それでも、一人では生きていけないことを「悟った」自分に怖いものは何も無い。

IT業界の端くれで、「世の中の為に」とがんばっているつもり。  
そうじゃないこともある。それでもいつかは世の中の為になると信じている。

今ならブログやツイッターになるんだろうが、22日間の道程を書き綴った「遍路日記」。  
こうして見返すと、あの頃しかできなかったことをしっかりやれていることがわかって、ちょっと嬉しい。

先日、愛媛で中学の同級会があった。  
卒業して20年らしい。  
道中お世話になった、うづきにも会った。カネくんにも会った。  
他のみんなも当然のように元気だった。  
おれももちろん元気だ。

次の10年。  
まずは父親としての使命を果たすことになるのだろうか。

もっと世の中の為になる仕事を見つけることになるのだろうか。  
しかしいくら思いを馳せても仕方がない。  
縁や運で人は動くことをこの10年で知っている。  
今しかできないことをしっかりやるだけだ。  
また良い10年になりますように。

---

2010年8月

めっちゃ暑いぞ!!おらあ~!!

iPadでこれを書きながら、10年前にこれがあればな~、と思わなくも無い。